

平成 30 年度（2018 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告  
（その 2）

- 箕面学力調査
- 箕面学習状況・生活状況調査

平成 31 年（2019 年）4 月

箕面市教育委員会

# 目次

箕面子どもステップアップ調査の概要	1
「箕面学力調査」「箕面学習状況・生活状況調査」について	4
箕面学力調査＜概要＞	6
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	8
箕面学力調査＜概要＞国語	10
箕面学力調査＜概要＞社会	14
箕面学力調査＜概要＞算数・数学	18
箕面学力調査＜概要＞理科	22
箕面学力調査＜概要＞英語	26
箕面学習状況・生活状況調査＜概要＞	31

# 箕面子どもステップアップ調査の概要

## 1 「箕面子どもステップアップ調査」とは

国には、

○全国学力・学習状況調査                      ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査  
があります。

箕面市では、国の調査の他、独自に以下の調査を実施しています。

- 箕面学力調査                      ○箕面学習状況・生活状況調査
- 箕面体力・運動能力、運動習慣等調査
- 学校生活アンケート
- 英検IBA

箕面市では、これら国の調査、箕面市独自調査のすべてを総称し、「箕面子どもステップアップ調査」と呼んでいます。

ステップアップ調査は、小中9年間を通して子どもたちの「学力・体力・豊かな心」をバランスよく育むため行うものです。

この調査により、毎年、子どもたち一人ひとりの各学年における学力・体力・生活の状況を把握・分析し、教員の指導力・授業力を高めるとともに、翌年度の各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9年間を通して継続的かつきめ細やかに子どもたちの総合力の育成を進めます。

		実施時期	1年生 (小1)	2年生 (小2)	3年生 (小3)	4年生 (小4)	5年生 (小5)	6年生 (小6)	7年生 (中1)	8年生 (中2)	9年生 (中3)
学力調査	全国学力 学習状況 調査	4月						● 国語 算数 理科			● 国語 数学科
	学力調査	12月	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	
	英検IBA	10月									●
体力調査 (★は全国調査に参加)		5～6月	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	●★ 8種目	● 8種目	● 8種目	●★ 8種目	● 8種目
生活 状況 調査	学習状況 生活状況調査	6月・12月									
	学校生活 アンケート	10月・2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●

## 2 報告の概要

この報告は、ステップアップ調査のうち、平成30年12月に実施した箕面学力調査、平成30年10月に実施した英検 IBA、及び平成30年6月と平成30年12月に実施した、箕面学習状況・生活状況調査の市全体の結果の概要を報告するものです。

なお、各学校の結果概要については、各学校の「ステップアップ調査概要」において、報告しています。

### 3 箕面子どもステップアップ調査内容

#### 学 力 調 査

- ▶ 学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。
- ▶ 調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

#### 内 容

- |  |
|--|
| (1) 全国学力・学習状況調査<br>[6年生(小6)] 国語 A・B、算数 A・B、理科<br>[9年生(中3)] 国語 A・B、数学 A・B、理科<br>問題Aは、主に知識・理解に関する問題<br>問題Bは、主に活用に関する問題   |
| (2) 箕面学力調査<br>各教科とも12月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査<br>[1～2年生(小1～小2)] 国語・算数<br>[3～4年生(小3～小4)] 国語・算数・理科・社会<br>[5～6年生(小5～小6)] 国語・算数・理科・社会・英語<br>[7～8年生(中1～中2)] 国語・数学・理科・社会・英語<br>なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施 |
| (3) 英検IBA<br>[9年生(中3)] 英語検定準2級～4級レベルを実施  |

#### 体 力 調 査

- ▶ 子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。
- ▶ 日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

#### 内 容

- |  |
|--|
| (1) 箕面体力・運動能力調査<br>「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施<br>調査種目<br>[1～3年生(小1～小3)] 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ<br>[4年生(小4)] 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン<br>[5～9年生(小5～中3)] 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈 |
| (2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査<br>全学年で実施  |

## 生活状況調査

- ▶ 子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情※などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

### 内容

- ・「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

## 4 箕面市の指標と目標値

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

平成 29 年度(2017 年度)から平成 31 年度(2019 年度)の3年間の目標値

	指標名		目標値
1	全国学力・学習状況調査	学力調査	トップの都道府県の平均正答率を上回る。
2	学習状況・生活状況調査 (i-check)	家庭学習時間の回答結果 (全学年) 『小学生が1時間以上、中学生が2時間以上』	平成29・30・31年度の最良の数値を上回る。
3		【いじめのサイン】の肯定値	肯定値が 小学校85.0 中学校95.0 を上回る
4		『自己肯定感に係る項目の肯定値の平均』 ①成功体験と自信 ②充実感と向上心 ③感動体験 ④他者からの評価	小学校 ①成功体験と自信85.0以上②充実感と向上心95.0以上 ③感動体験75.0以上④他者からの評価70.0以上  中学校 ①成功体験と自信80.0以上②充実感と向上心85.0以上 ③感動体験70.0以上④他者からの評価70.0以上
5	英検 I BA	英検3級程度の力 (中3)	80%を超える。 ※英検3級程度の力を有する生徒
6	体力・運動能力、運動習慣等調査	全8種目の結果 (全学年)	全国平均値を上回る。
7	学習状況・生活状況調査 (i-check)	学級風土に係る項目の肯定値の平均 ①『学級の規範意識』 ②『学級の絆』	肯定値 小学校①80.0以上 ②85.0以上 中学校①75.0以上 ②85.0以上
8	学校生活適応状況	全学年の不登校 (傾向) 千人率	平成29・30・31年度の最良の数値より下げる。

# 「箕面学力調査」、「箕面学習状況・生活状況調査」について

## 1 調査の目的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 実施日

### 第1回箕面学習状況・生活状況調査

小・中学校 : 平成30年(2018年)6月14日(木)

### 箕面学力調査及び第2回箕面学習状況・生活状況調査

小学校 : 平成30年(2018年)12月11日(火)

平成30年(2018年)12月12日(水)

中学校 : 平成30年(2018年)12月18日(火)

平成30年(2018年)12月19日(水)

## 3 調査対象

市内全公立小学校全児童及び、全中学校全生徒

## 4 調査内容

### 箕面学力調査

小学校1・2年生 : 国語、算数

小学校3・4年生 : 国語、算数、理科、社会

小学校5・6年生 : 国語、算数、理科、社会、英語

中学校1・2年生 : 国語、数学、理科、社会、英語

### 箕面学習状況、生活状況に関する調査

自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣等の諸側面等に関する内容

## 5 参加人数

### 第1回箕面学習状況・生活状況調査

小学校	： 14校	8454 人		
中学校	： 8校	3353 人	計	11807 人

### 箕面学力調査

小学校	： 14校	8375 人		
中学校	： 8校	2232 人	計	10607 人

### 第2回箕面学習状況・生活状況調査

小学校	： 14校	8510 人		
中学校	： 8校	3361 人	計	11871 人

## 6 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上及び生活状況の向上に向けて連携した取組につなげる。

## 7 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2) 学校間の過度の競争等につながるおそれのある個々の学校名を明らかにした公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により保護者に説明する。

## 8 公表の手段

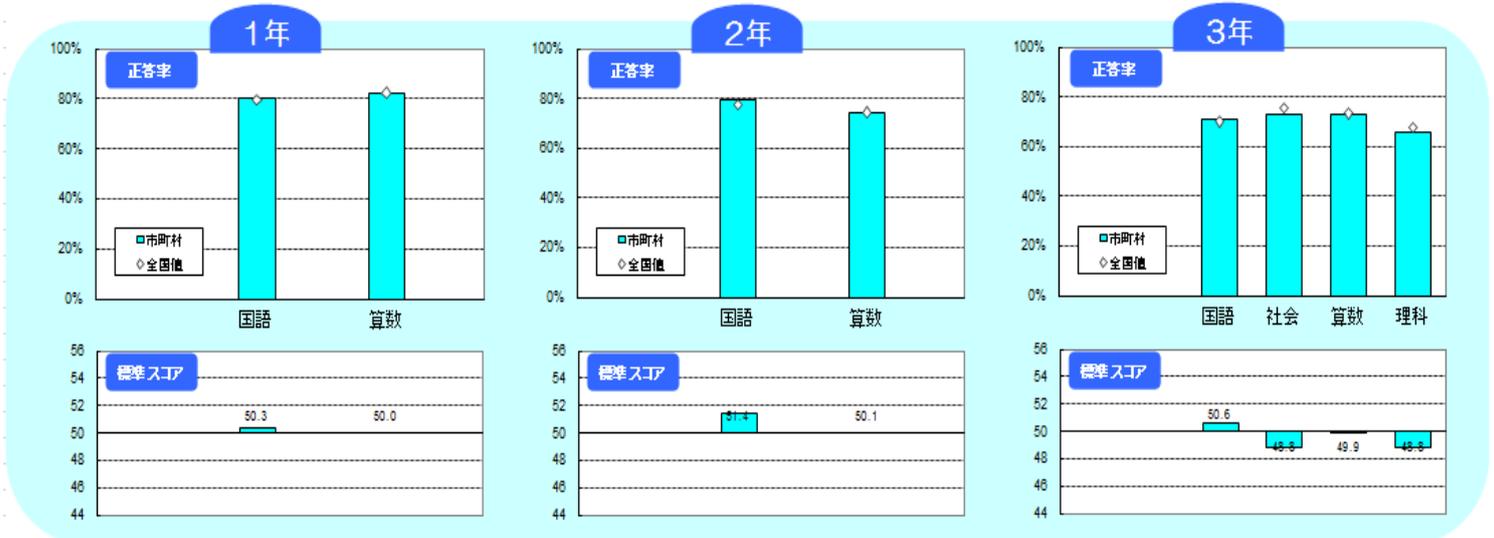
- (1) 教育委員会
  - ①教育委員会ホームページ
  - ②行政資料コーナー
  - ③豊川支所、止々呂美支所
  - ④市内公立図書館の資料コーナー
- (2) 各学校
  - ①「学年の概要」で説明
  - ②学校協議会、懇談会などで説明

# 箕面学力調査 〈概要〉

## 小学校 〈平均正答率の状況〉

「全国値」とは、委託業者が各都道府県あたり1校以上の学校に対して、同一問題のテストを事前実施して、算出したものです。

教科	1年		2年		3年			
	[国語]	[算数]	[国語]	[算数]	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]
箕面市	80.1	82.4	79.7	74.4	71.1	72.8	73.1	65.7
全国値	79.6	82.3	77.5	74.3	70.0	75.4	73.3	67.7
標準スコア	50.3	50.0	51.4	50.1	50.6	48.8	49.9	48.8



教科	4年				5年				6年			
	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]	[国語]	[社会]	[算数]	[理科]
箕面市	76.1	71.2	72.3	67.0	74.4	64.7	62.0	66.1	76.9	66.5	75.6	67.0
全国値	74.8	71.8	72.0	68.8	72.0	63.4	63.1	67.4	75.2	69.5	73.1	67.1
標準スコア	50.7	49.6	50.1	49.1	51.4	50.7	49.4	49.3	51.1	48.5	51.3	50.0

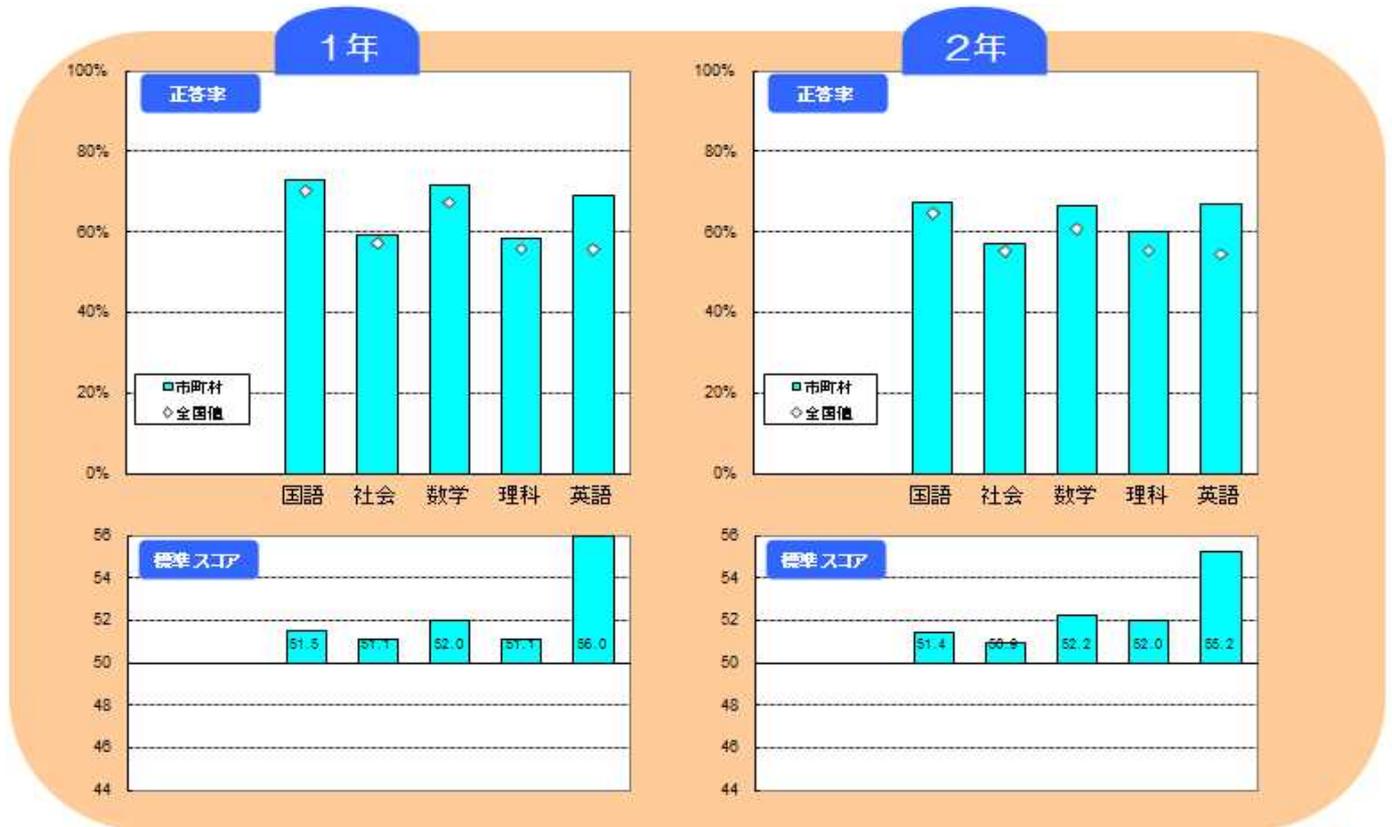


※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値で、50のラインを境に棒グラフが上に出ていれば相対的に良好であることを、下に出ていれば課題があることを示しています。

## 中学校 <平均正答率の状況>

教科	1年(7年)				
	[国語]	[社会]	[数学]	[理科]	[英語]
箕面市	73.0	59.2	71.7	58.2	68.9
全国値	70.2	57.2	67.3	55.7	55.7
標準スコア	51.5	51.1	52.0	51.1	56.0

教科	2年(8年)				
	[国語]	[社会]	[数学]	[理科]	[英語]
箕面市	67.2	57.1	66.4	60.1	66.7
全国値	64.5	55.3	60.7	55.4	54.5
標準スコア	51.4	50.9	52.2	52.0	55.2

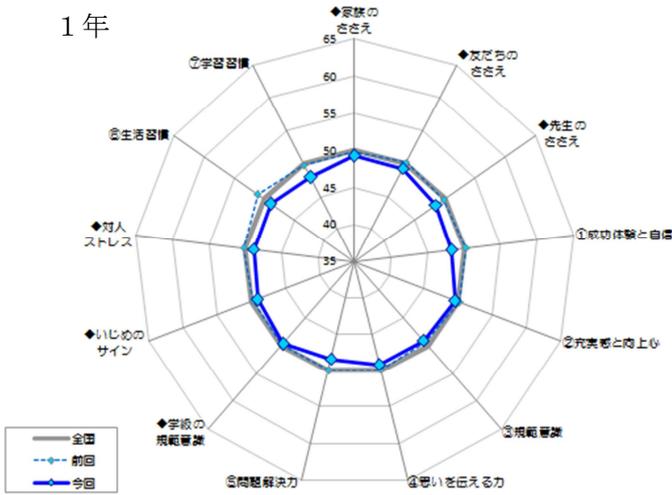


※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値で、50のラインを境に棒グラフが上に出ていれば相対的に良好であることを、下に出ていれば課題があることを示しています。

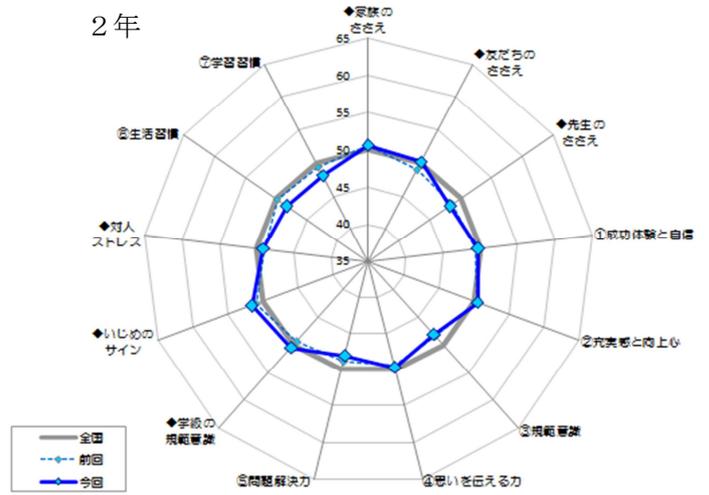
※外側に広がるほど、良好な結果になります。

### 小学校

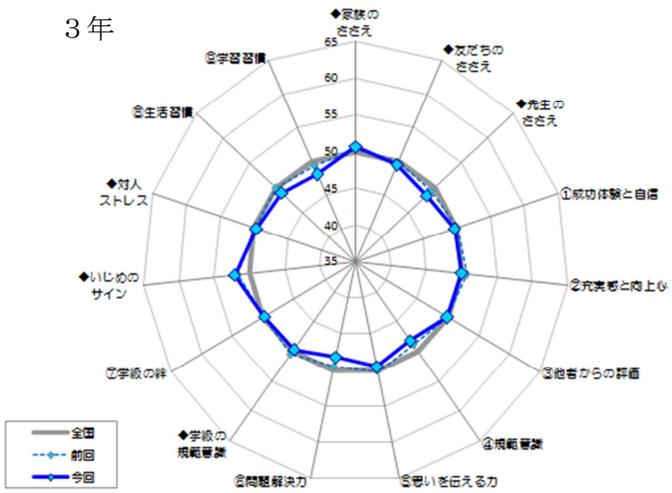
1年



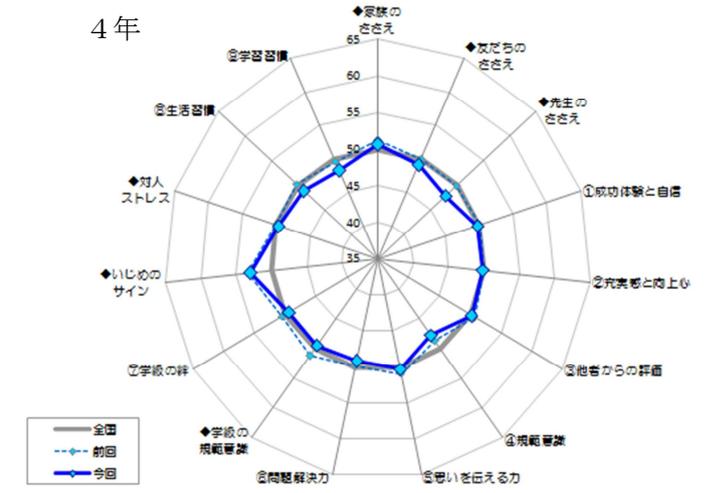
2年



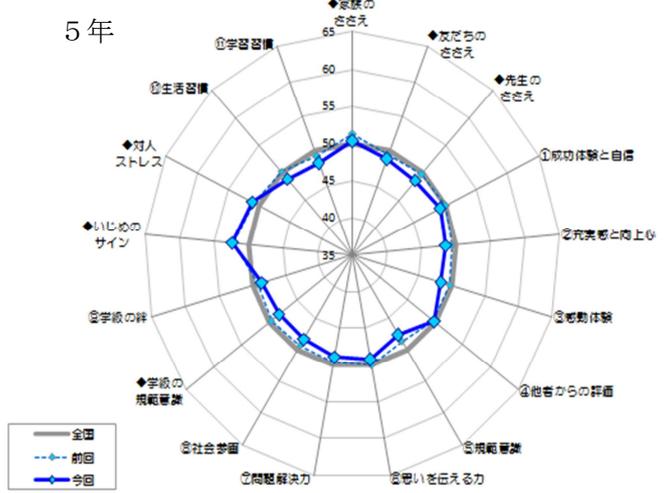
3年



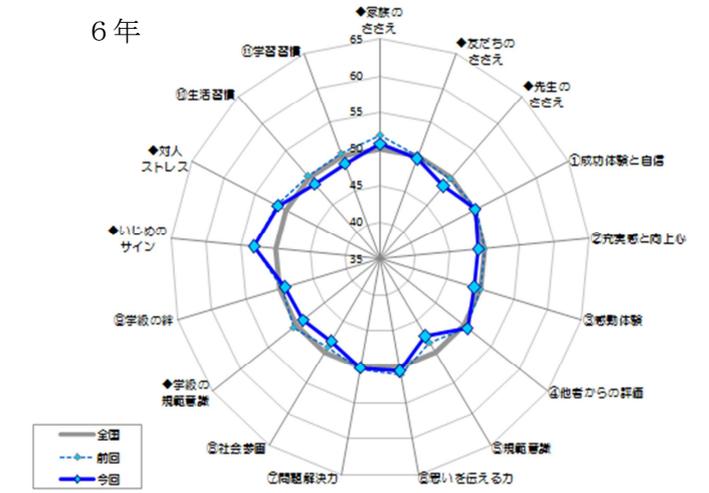
4年



5年

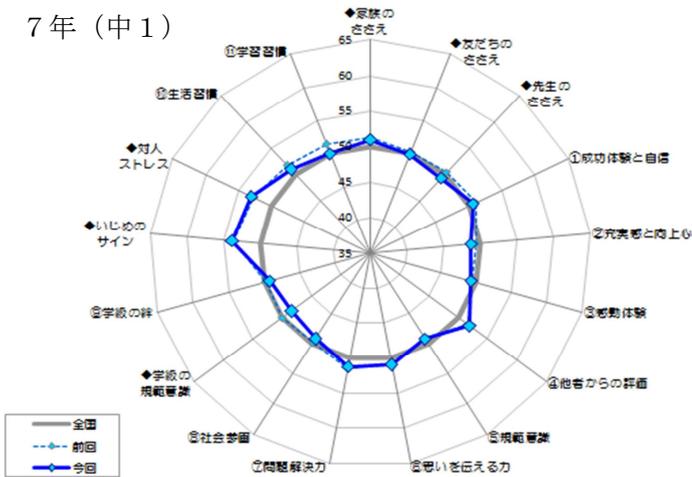


6年

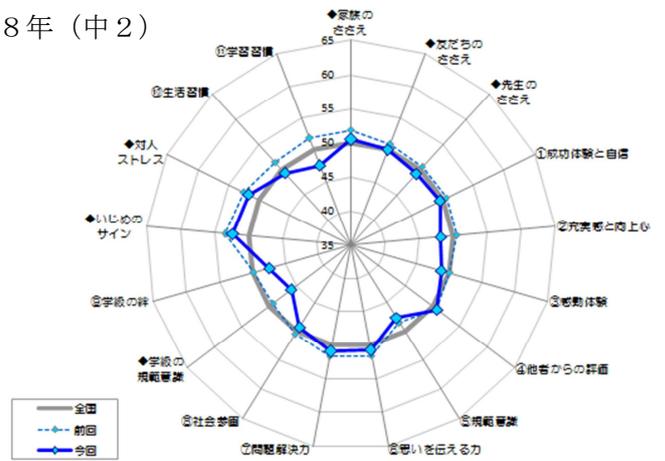


# 中学校

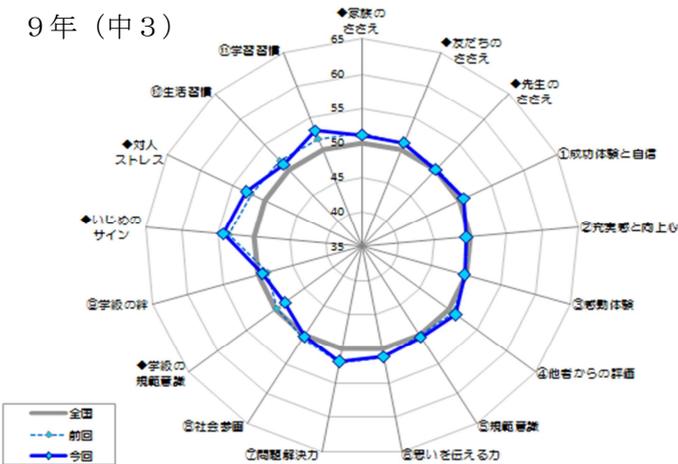
7年（中1）



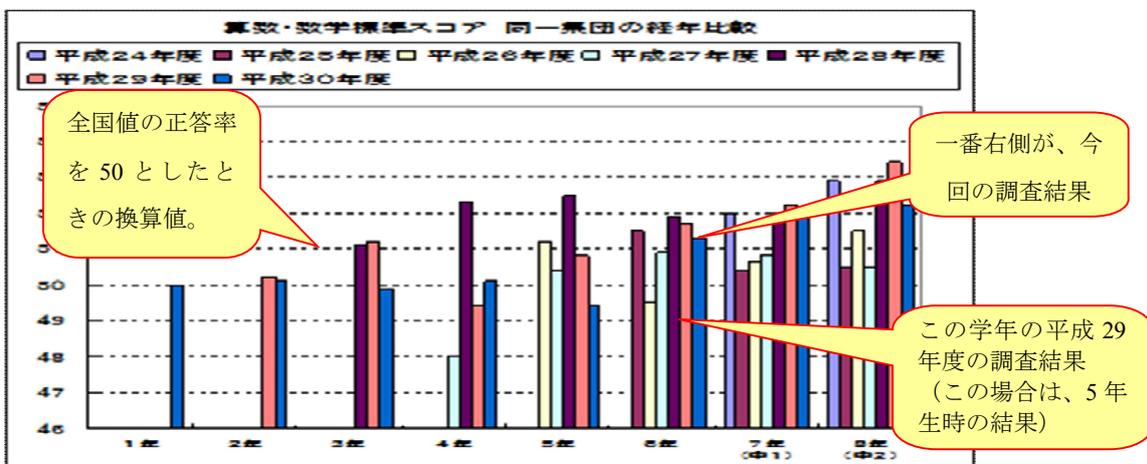
8年（中2）



9年（中3）



## <グラフについて>



## <学年表記について>

「1年」とは、小学校1年生であり、中学校1年生は、「7年（中1）」と表記しています。

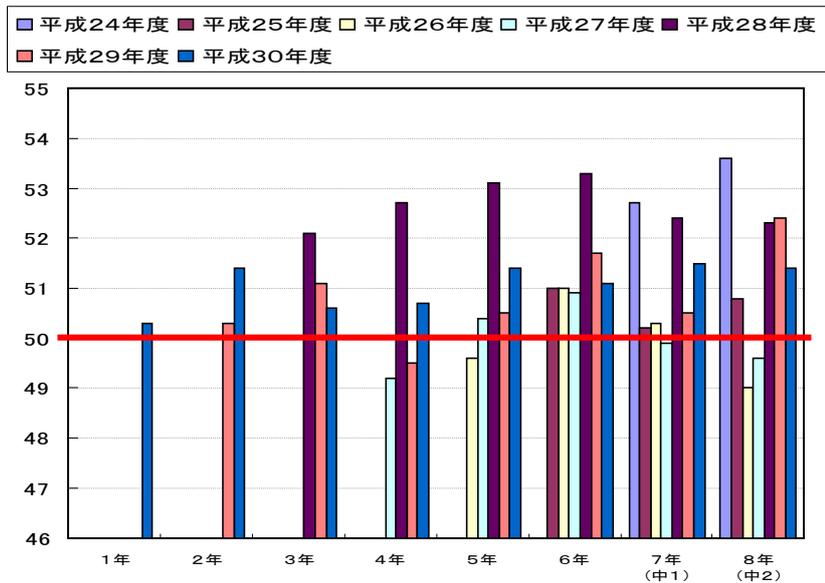
# 算面学力調査〈概要〉 国語

## 学年ごとの標準スコア

※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことをごさる。

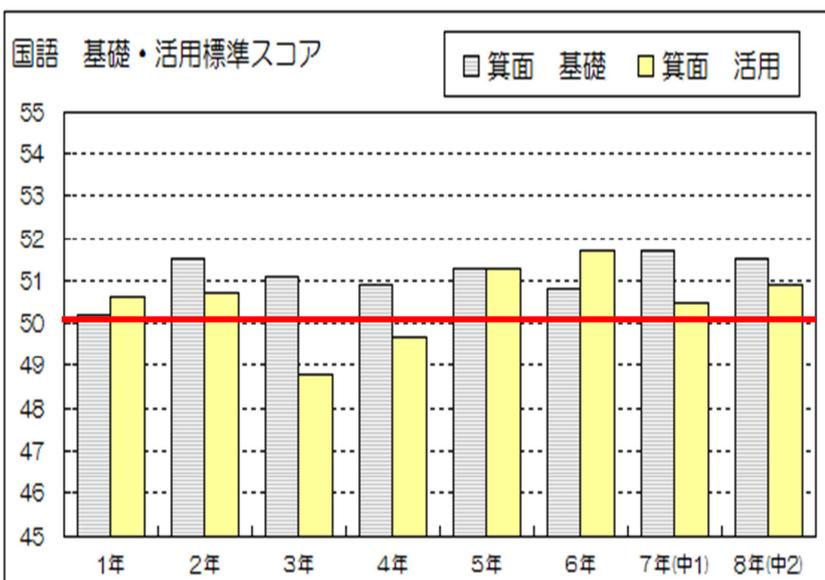


国語標準スコア 同一集団の経年比較



- 全ての学年が全国平均値の正答率を上回っています。
- ほとんどの学年で標準スコアの上昇傾向が見られます。

## 基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



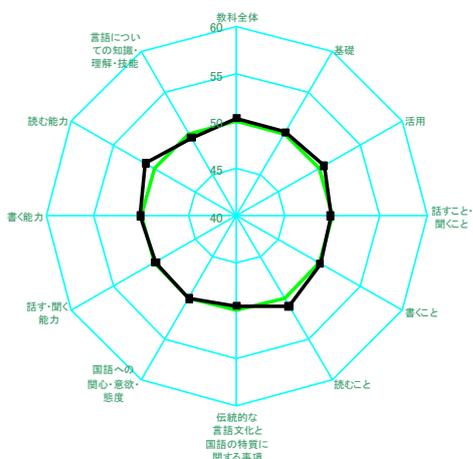
「基礎」の標準スコアは全学年とも全国平均値を上回ったね。



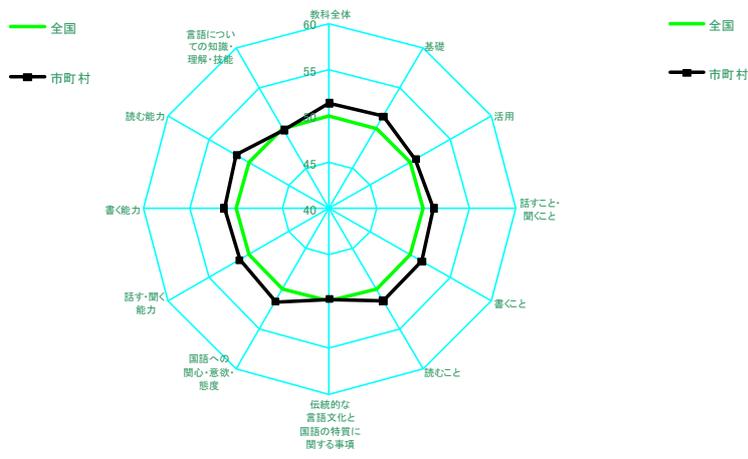
- 3・4年以外は、「基礎」も「活用」も数値が50を上回っています。
- ほとんどの学年で「活用」より「基礎」の標準スコアが上回っています。

# 標準スコアによるカテゴリー間の比較

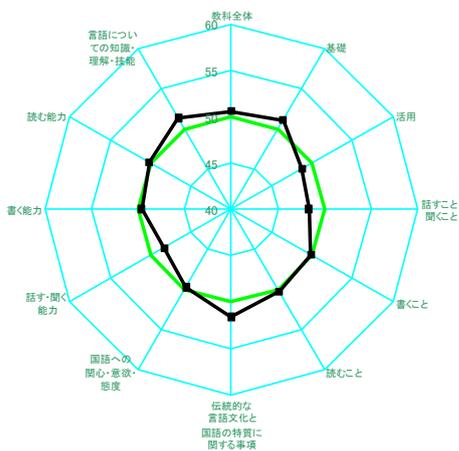
1年



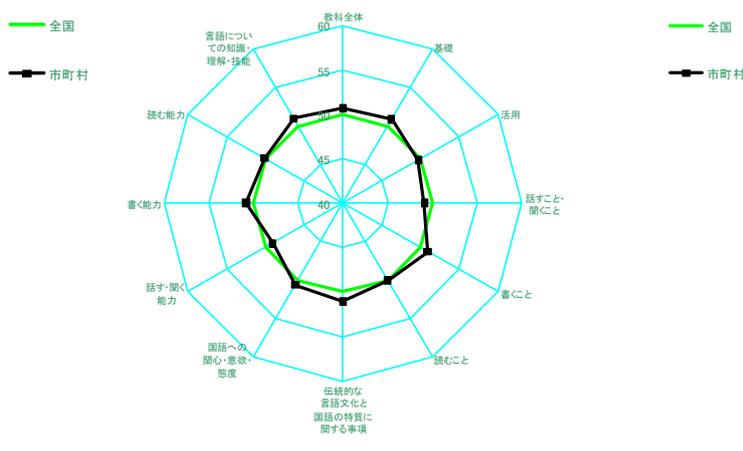
2年



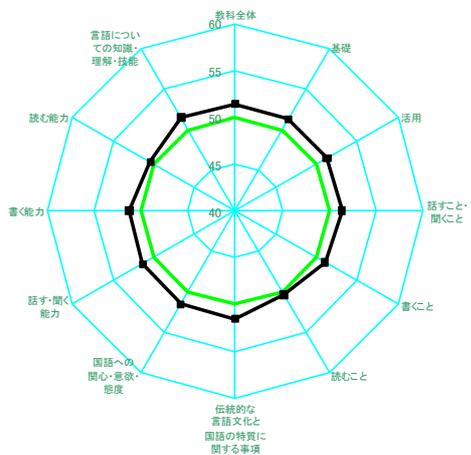
3年



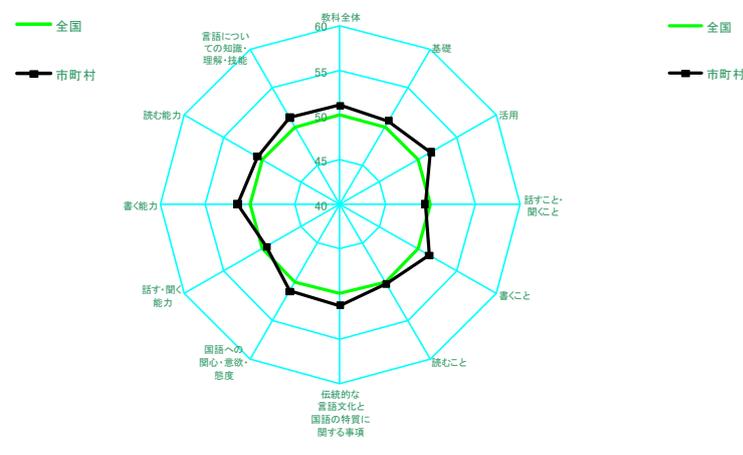
4年



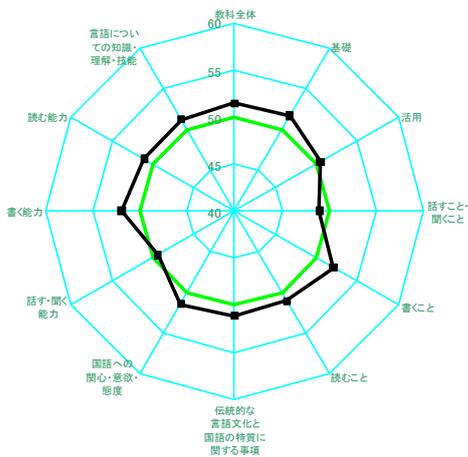
5年



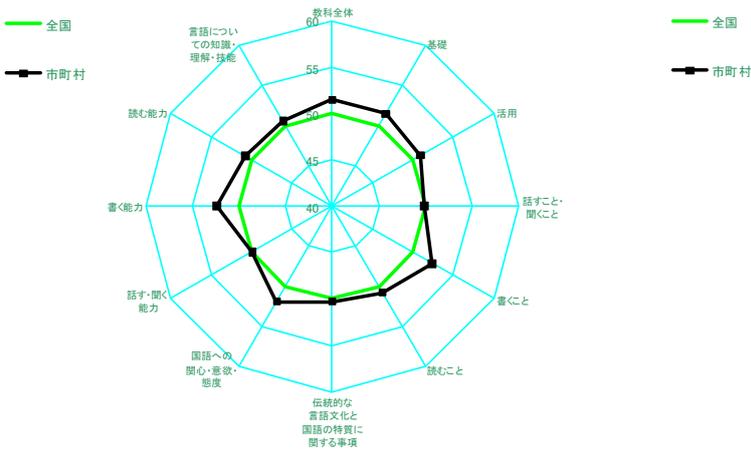
6年



7年(中1)



8年(中2)



- 「書く」に関するカテゴリにおいて、全国平均値を上回っている学年が多く見られます。
- 「話す・聞く」に関するカテゴリにおいて、全国平均値を下回っている学年がやや見られます。

設問例から見えてくること

○3年(話し合いの様子の放送を聞き、発言に対しての立場と理由を答える問題)

全国平均に比べ  
正答率が8.0ポイント下回りました。

【正答の条件】賛成か反対という「立場」とその「理由」が書かれていること。

① (3) あなたは、上田さんが言った合奏のしかたにさんせいですか、それとも反対ですか。話し合いにさんかしているつもりで、あなたの意見とその理由を、じっさいに話すように書きましょう。

【正答例】わたしは、上田さんの意見にさんせいですが、なぜなら、いろいろな楽器が入るほうが、聞いている人も楽しいと思うからです。

○7年(中1)(話し合いの様子の放送を聞き、司会の進行のしかたと発言をふり返り反省点を答える問題)

全国平均に比べ  
正答率が2.4ポイント下回りました。

① (4) 話し合いのあとで、野田さんは、自分の発言について、次のように反省しました。  
□に当てはまる言葉を、十字以上十五字以内で書きなさい。

「意見と理由は話したけれども、司会者に質問されるまで、□ことは反省しないとけないな。」

【正答例】具体的な方法を話さなかった

【正答の条件】「具体的な方法を話さなかった」という内容を書いていること。

●話し合い活動の様子を聞き、進行にそって考えを表現する問題に共通して課題が見られました。

3年の問題の出題のねらいは、話題に沿った意見と理由を考えて話すことができるかをみることで、7年(中1)の問題の出題のねらいは、話し合いの方向をとらえることができるかをみることです。自分の立場や考えが明確になるように話の構成を検討する力に課題が見られる結果となりました。

(次ページに解説)

## 次年度のステップアップにむけて

### 国語科の学力向上の視点

相手に伝えるために、話の構成を意識することが大事でござる。



#### 話を構成する力をつけるために

一昨年度から課題が見られる「話す・聞く」に関するカテゴリーの標準スコアは、全国平均値を下回る学年がやや見られます。今年度は「話すこと」のうち、自分の考えを伝えるために話を構成する力に課題が見られました。

#### 話の構成を考えることについての学年別学習内容

新学習指導要領において話の構成を考えることについて以下の表に示すとおり学年ごとに段階的に学習していきます。

小学校 1・2年	相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。
小学校 3・4年	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
小学校 5・6年	話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。
中学校 1年	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。
中学校 2年	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。
中学校 3年	自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。

前ページにとりあげた3年の問題では、賛成か反対かという「立場」が話の中心であり、「理由」を挙げて話を構成する必要があります。また、7年の問題では、司会者が「意見」「理由」「具体的な方法」を話すことを求めているので、必要な事柄を組み込んだ話の構成になっているかを検討し、発言の反省点を考える必要があります。

#### 自分の考えを相手に伝えるために

今の子どもたちが成人して社会で活躍するために、他者と協働して課題を解決していくことができるようにする必要があります。他者と協働する上で、他者と話し合うことが不可欠です。一人ひとりが自分の考えを持ち、相手に伝える力が必要となります。

上の表に示すように、9年（中3）では「相手を説得できる」ように話を構成することを学習します。そこに至るまでには、「順序」「理由や事例を挙げる」「事実と感想、意見を区別」「中心と付加的な部分」「論理の展開」など様々なことを考えながら話を構成できるように段階的に学習していきます。

学校では、話し合いの中で一人ひとりが話の構成を意識出来るように指導していきます。ご家庭でも可能な限り意識してみてください。

# 算面学力調査〈概要〉社会

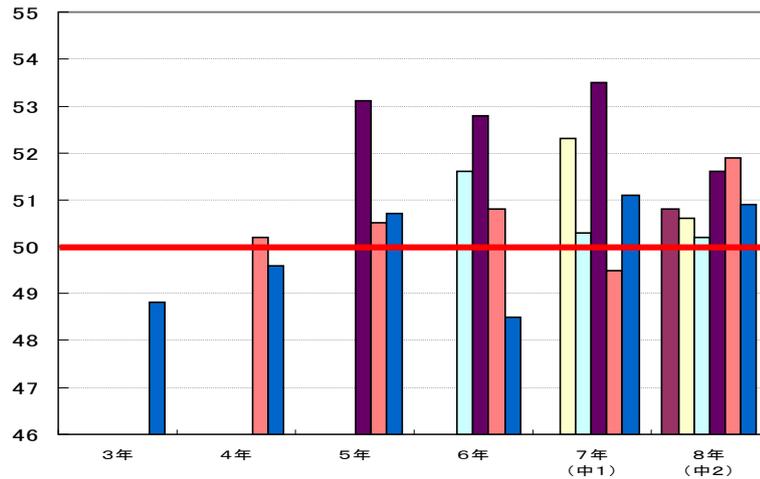
※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことをごさる。



## 学年ごとの標準スコア

社会標準スコア 同一集団の経年比較

■平成25年度 □平成26年度 □平成27年度 ■平成28年度 □平成29年度  
■平成30年度

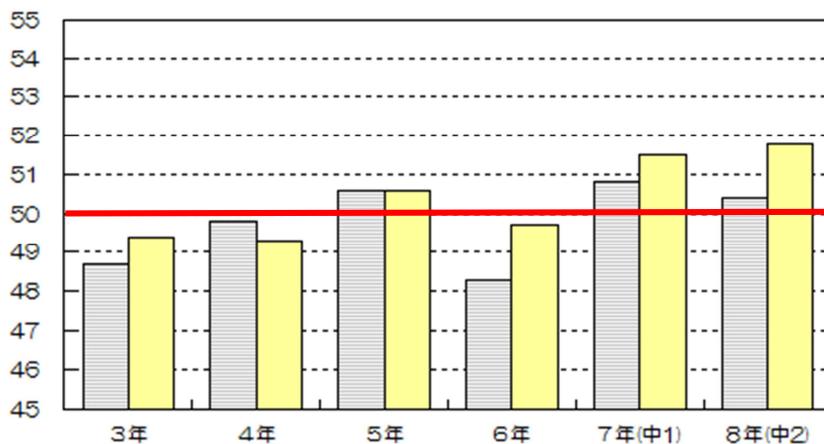


- 5年、7年(中1)、8年(中2)は、全国平均値を上回っています。
- 同一集団の経年比較で、5年、7年(中1)は、昨年度を上回っています。(3年は昨年度無し)

## 基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況

社会 基礎・活用標準スコア

■算面 基礎 □算面 活用



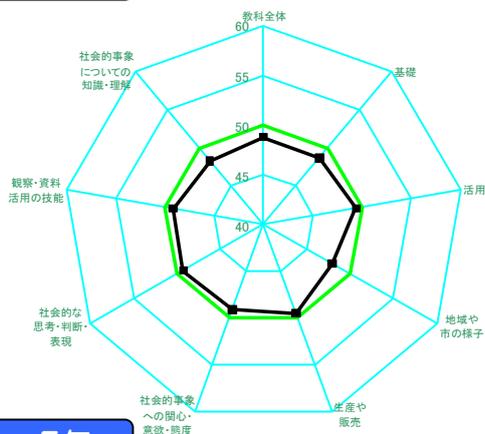
昨年度と同様に全国平均値を上回っている学年とそうでない学年があるよ。



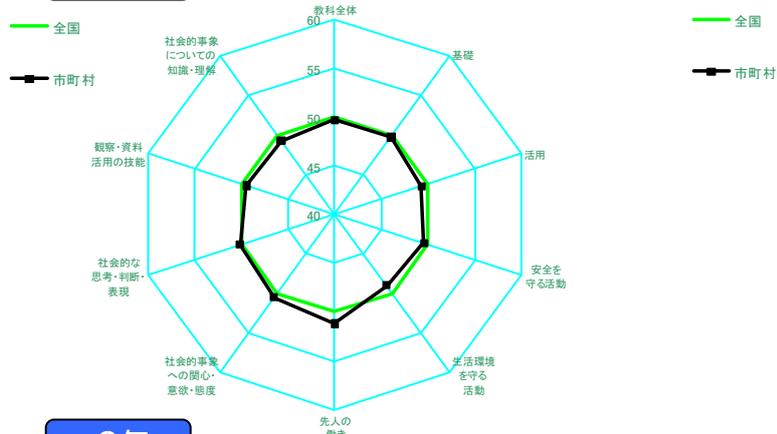
- 5年、7年、8年については「基礎」「活用」ともに全国平均値を上回っているものの、3年、4年、6年については全国平均を下回り、課題が見られます。
- 「活用」は、3年、6年、7年、8年で「基礎」より上回っていますが、5年生は同等、4年生では下回っています。

## 標準スコアによるカテゴリー間の比較

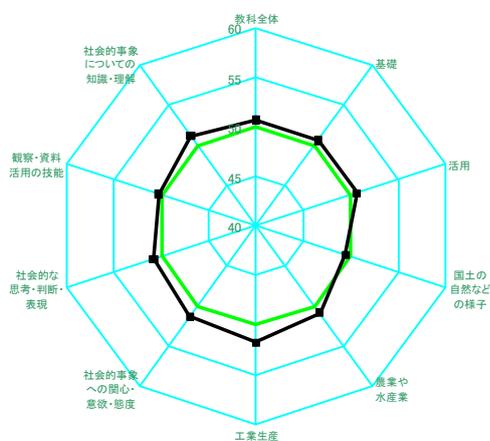
3年



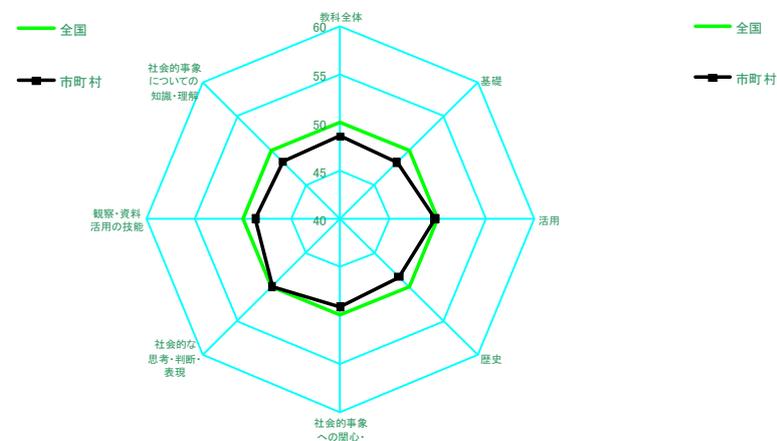
4年



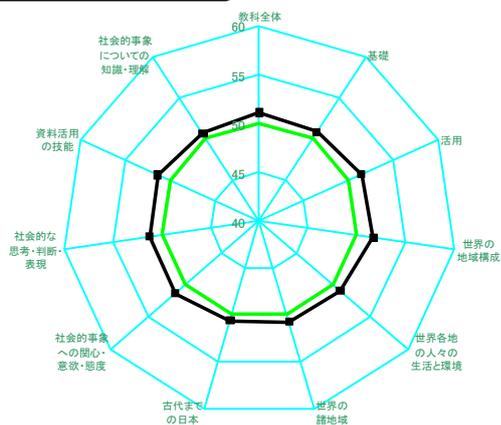
5年



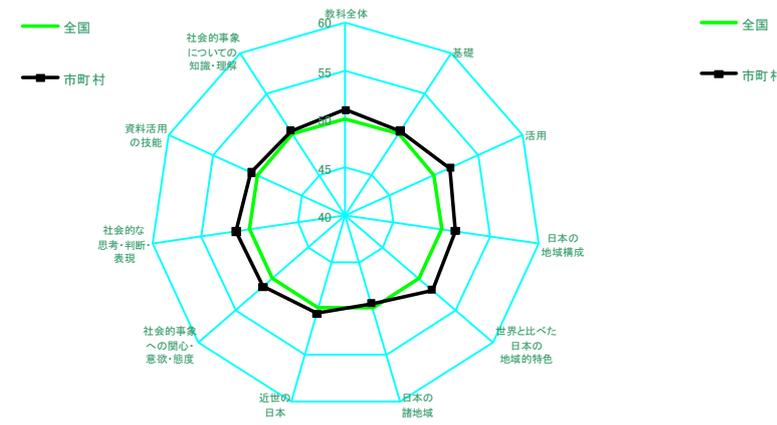
6年



7年(中1)



8年(中2)



- 3年…「基礎・活用」「領域」「観点」すべての分類で全国平均値を下回っています。
- 4年…「先人の働き」の領域、「関心意欲」「思考判断」の観点以外、全国平均値を下回っています。
- 5年…「国土の自然などの様子」の領域以外、全国平均値を上回っています。
- 6年…「基礎・活用」「領域」「観点」すべての分類で全国平均値を下回っています。
- 7年…全ての分類で、全国平均値を上回っています。
- 8年…「日本の諸地域」の領域以外、全国平均値を上回っています。



## 設問例から見えてくること

### 6年 大昔のくらし

大和朝廷による国土の統一の様子について、資料をもとに考え、表現する問題

資料から読み取れることを考え、キーワードを使って書くことが課題

鉄剣・鉄刀が出土した2つの古墳の位置から、どのようなことが考えられるか「大和朝廷」という言葉を使って書く  
(正答例) 大和朝廷が、広いはんにいで国内を支配していたこと。



○社会的事象を多様な視点でとらえ、事象同士を関連づけることに心がけよう

- ・資料から、なぜ離れた古墳から同じ物が出土したかを考える。
- ・「大和朝廷」は広いはんにいで国内を支配していたことと資料を関連づける。
- ・「大和朝廷」という言葉を使って考えられることを表現する。

### 8年(中2) 日本の諸地域

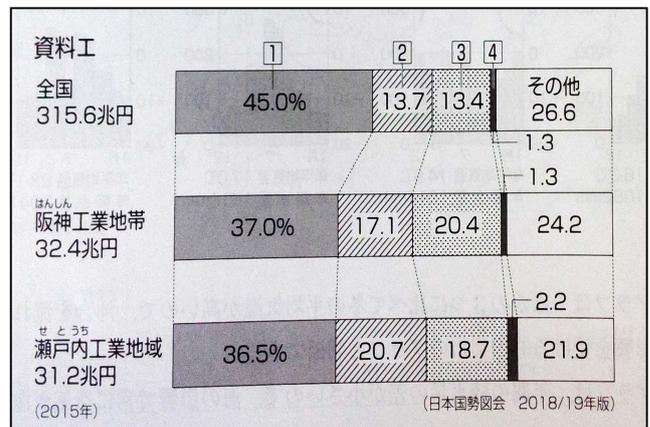
日本の工業生産の変化について、資料から適切な選択肢を選ぶ問題

資料を適切に読み取り、判断することが課題

資料オについて、あてはまる工業を資料エ中の①～④から選ぶ (④が正答)

○複数の資料を吟味し、関連づけて考察してみよう

- ・資料エを読み取る。(①から④がそれぞれ何工業かを考えることができれば、すぐに理解できると思われませんが、この知識がなくても資料オを読み取れば解答できる問題です。)
- ・資料オでは、「繊維工業」について説明していることを読み取る。
- ・資料オの「現在では、綿花は輸入したものが使われるようになり、国内ではほとんどつくられなくなった」の部分を読み取り、グラフと照らしあわせて解答を出す。



江<sup>えど</sup>戸時代、現在の大<sup>おおさか</sup>阪府付近は綿花の一大産地で、農家が糸や布に加工して商人に売ることもさ<sup>わかやま</sup>かんに行われた。また、当時は現在の岡<sup>おかやま</sup>山県でも綿花がさかん栽培され、それを加工してつくった布やひもが観光客の土産にもなった。

明治時代以降は大<sup>めいじ</sup>阪府でも岡<sup>おかやま</sup>山県でも、糸・布・衣類などは大規模な工場で大<sup>えひめ</sup>量に生産されるようになり、一時は日本を代表する工業となった。また、愛媛<sup>えひめ</sup>県でも近<sup>きんき</sup>畿地方にならって、この工業を行う者が現れ、発展していった。

現在では、綿花は輸入したものが使われるようになり、国内ではほとんどつ<sup>えひめ</sup>くられなくなった。しかし、今でも大<sup>えひめ</sup>阪府や愛媛<sup>えひめ</sup>県はタオル、岡<sup>おかやま</sup>山県は学生服やデニム(ジーンズ)の、国内を代表する産地として有名である。

**資料オ**

社会科では、多くの資料(史料)を扱います。その都度、資料同士を比較したり関連づけたりして、資料から「何がわかるか」「どんなことが予想されるか」を今持っている自分の知識と結びつけたりして考えるようにしましょう。

社会科的知識は、一つ一つを覚えるだけでなく、事象同士を関連づけたり、起こった理由や背景を追求したりして、体系的につながりを持たせて理解し、「断片的ですぐに忘れてしまう知識」から脱却しましょう。

## 次年度のステップアップにむけて

### 社会科の学力向上の視点

地図帳や資料集などはいつも身近においておきたいね。疑問に思ったことがすぐに調べられるよ！



## 社会的な「思考力・判断力・表現力」を児童生徒がのばすために

- 1 児童生徒に「問い」を発生させる授業づくり ⇒ 「なぜだろう」「どうなっているかな」
  - ①ねらいにせまる「問い」を児童生徒から引き出すため、地理的視点（位置や空間的な広がり）、歴史的視点（時期や時間の経過）、公民的視点（事象や人々の相互関係の視点）を生かした資料、主発問を工夫し、考察や構想に向かう活動ができるよう努めます。
  - ②児童生徒の「問い」を生かした学習問題の設定や問題解決的な学習を充実させながら、「考察、構想した結果、深い知識、新たな概念」を獲得できる授業を目指します。
- 2 社会科の「観察・資料活用の技能」育成のポイント ⇒ 比較、分類、関連付け、総合化
  - ①理科や算数・数学科などでの図、表、グラフを扱った学習と関連付け指導します。
  - ②教科書、地図帳、資料集を組み合わせ、繰り返し活用していきます。
  - ③課題に合った資料を、児童生徒自らが取捨選択する場面を設定します。
  - ④読み取った内容に多角的・多面的な考察を加え、傾向や意味を見出す学習を設定します。
  - ⑤読み取ったことをもとに、意見が交換できるよう話し合いの場面を設定します。
  - ⑥タブレット等を活用し、調べたことをもとに自ら資料を作成することで、資料の有用性、着目すべき点を体感する場面を設定します。
  - ⑦学習後、新たな問い、疑問へ発展する学習を設定します。
- 3 社会的な「思考力・判断力・表現力」の育成のポイント ⇒ キーワードは「学び合い！」 説明・論述・議論
  - ①資料から読み取ったこと（事実）と、読み取ったことをもとに考えたこと（解釈）とを、明確に分けて記録したり伝達したりすることが大切です。
  - ②社会的な事象を、原因や影響といった因果関係にまで及んで結び付けてまとめます。
  - ③資料を根拠として、考えを交流し議論します。
- 4 各時間及び単元末のふりかえりを重視
  - ①自らの生活や問題意識と結びつけます。
  - ②自らの思考を客観化し、自分の考えの変容を文章で記述します。

(まとめ)

■ 「公民『としての』資質・能力」育成のために、以下の3点が不可欠です！

- ①『社会的な見方・考え方』を用いる
- ②考察、構想、説明、議論等の学習活動を組み込む
- ③課題を追求したり解決したりする活動を行う

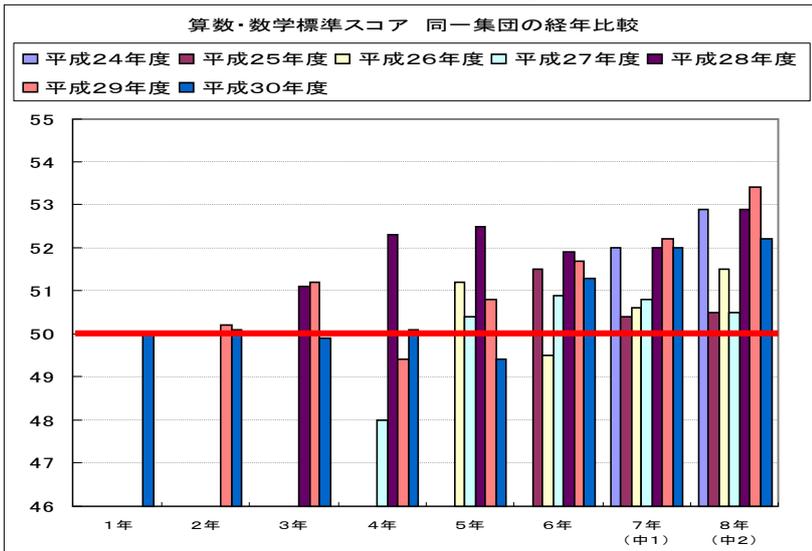
さらに、小・中学校間をつなぐ系統性を重視し、将来につながる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の検討が、これからの社会科学習では課題となってきます。

# 算面学力調査〈概要〉算数・数学

※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことをごさる。

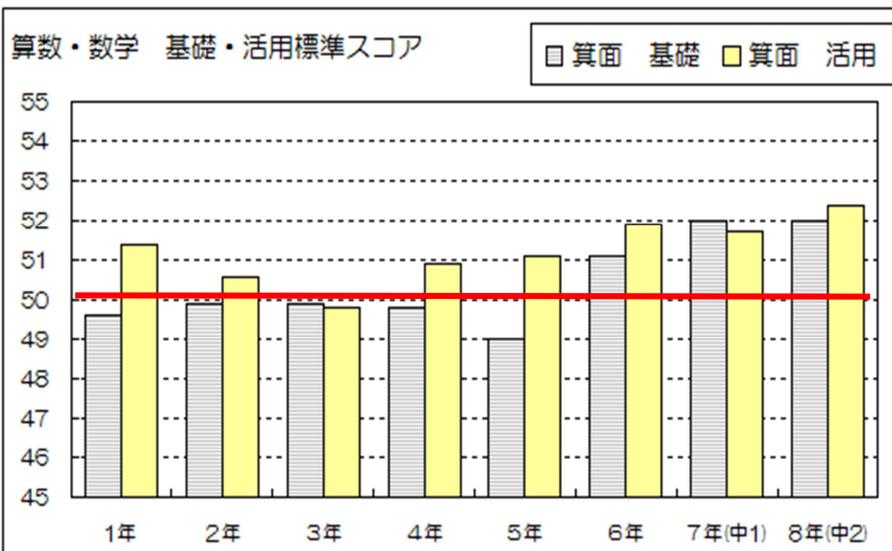


## 学年ごとの標準スコア



- 1年、2年、3年、4年の学年では、全国平均と同等のスコアとなった。5年では、全国を下回る結果となった。6年、7年、8年の学年では、全国平均を上回った。
- 4年の学年における経年比較では、平成29年度と比べて伸びを見せています。

## 基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



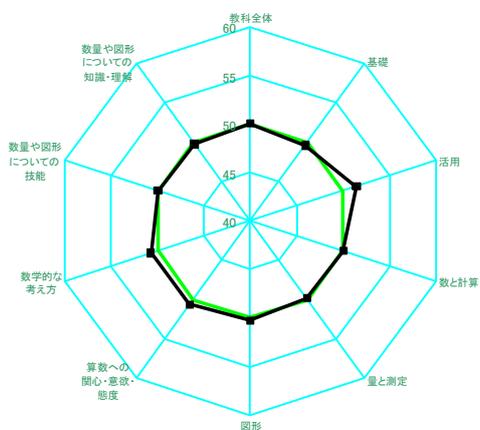
基礎の力も活用する力も学年が上がるにつれてしっかりと定着しているよ。



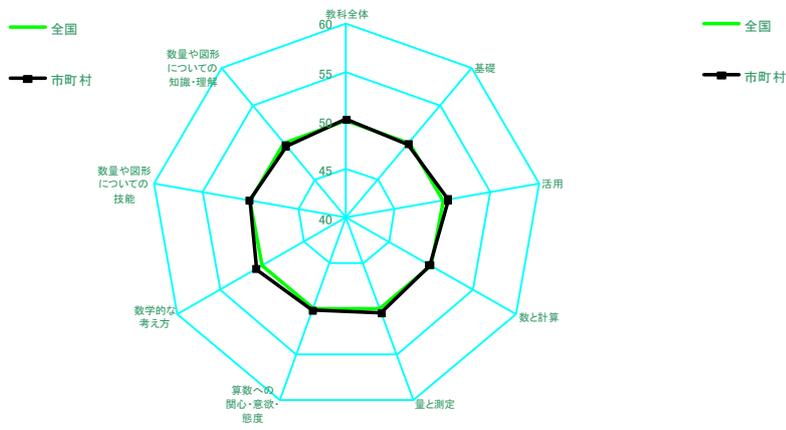
- 3年以外の学年で「活用」が全国平均値を上回っています。中でも、6年、7年、8年の「基礎」及び8年の「活用」が大幅に上回っています。
- 6年、7年、8年では、「基礎」が全国平均値を上回っています。

# 標準スコアによるカテゴリー間の比較

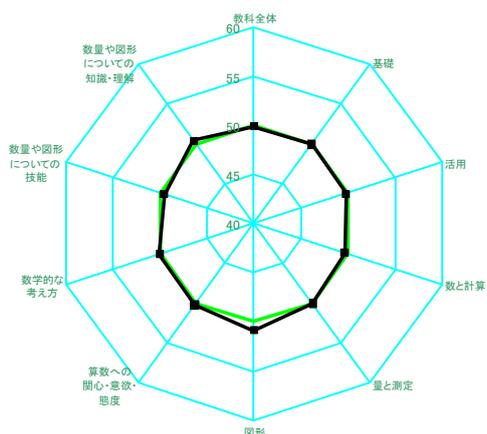
1年



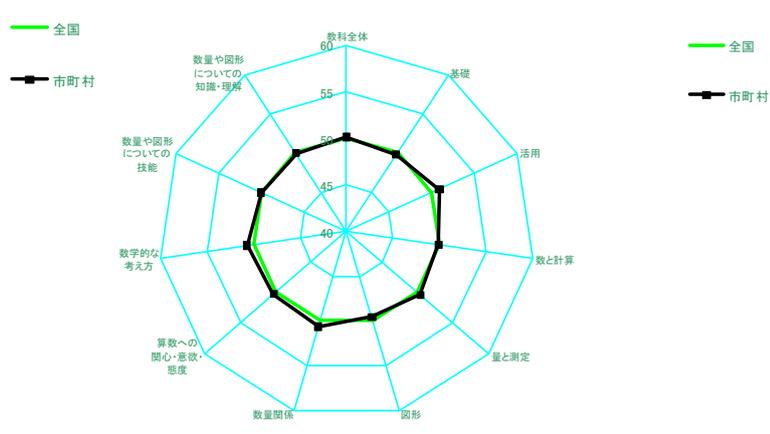
2年



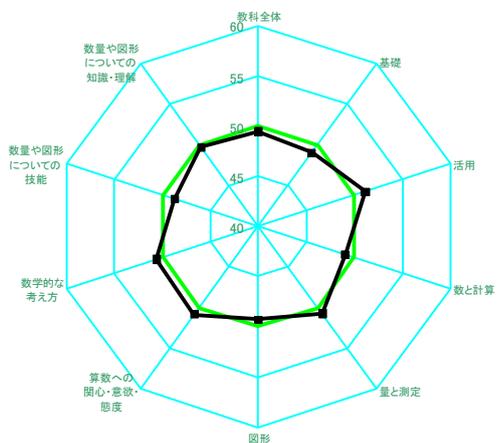
3年



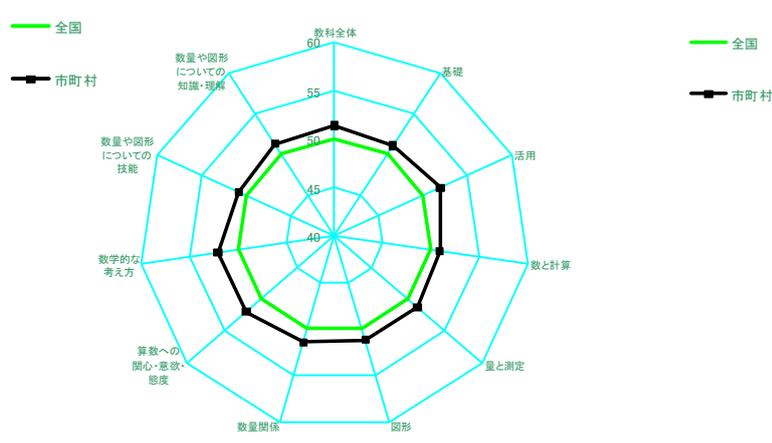
4年



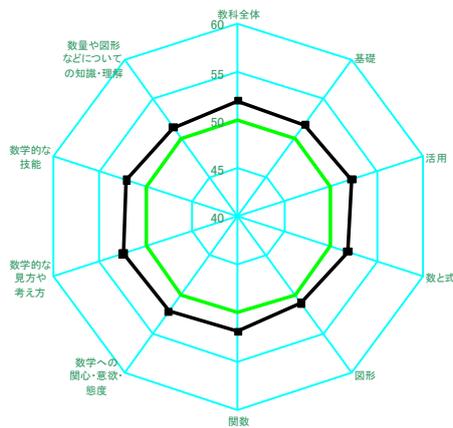
5年



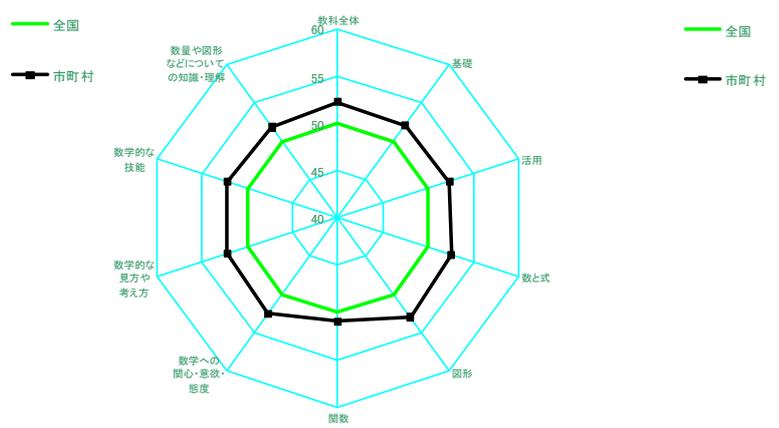
6年



## 7年(中1)



## 8年(中2)



- 5年を除いた学年のほぼ全領域で、全国平均値を上回っています。(全学年で数学的な(見方)考え方について、全国平均を上回っている。6年以上ではすべての観点において、平均を大きく上回っています。)
- 5年では、「数量や図形についての技能」で全国平均値より下回っています。
- 8年では、特に「図形」のポイントが大きく上回っています。

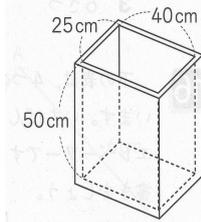
簡単そうに見えて、  
意外と難しいなあ



## 設問例から見てくると

### 5年 問題 13

右の図のような、直方体の形をした水そうがあります。この水そうの容積は何Lかを求める式はどれですか。答えは1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1  $25 \times 40 \times 50 \div 1000$       3  $25 \times 40 \times 50 \div 10$   
 2  $25 \times 40 \times 50 \div 100$       4  $25 \times 40 \times 50$

《正答》 1  $25 \times 40 \times 50 \div 1000$

○直方体の水そうの容積を、単位をLにして換算して求める式を選ぶことができるかが問われています。1Lは1000cm<sup>3</sup>という意味を理解して、それを活用する力が求められています。

### 7年 問題 8 (2)

3000mのジョギングコースを、はじめは毎分200mの速さで走り、そのあと毎分80mの速さで歩くと、ゴールするまでに18分かかりました。はじめに走っていた時間を求めるために、走っていた時間を $x$ 分として、方程式をつくりなさい。ただし、つくった方程式を解く必要はありません。

《正答》 (例)  $200x + 80(18 - x) = 3000$

	走っている区間	歩いている区間	合計
速さ	毎分 200m	毎分 80m	
時間 (分)	$x$	$18 - x$	18
距離 (m)	$200x$	$80(18 - x)$	3000

○文章で書かれている情報を、表や図を使って整理し、立式する力が必要となっています。この問題の正答率は26.9%となっており、同様に立式する問題の正答率が低くなっています。

## 思考力・判断力・表現力の育成が必要

日常の出来事を数学的にとらえたり、考えを式や言葉で表現したりする問題は、全国的にも正答率が低くなる傾向が見られます。今後は、基礎的な知識・技能の確実な定着を図り、何ができるようになるかということがいっそう重視されます。知識や技能を活用し、多様な問題にも対応できる思考力・判断力・表現力をつけることが重要です。

## 次年度のステップアップにむけて

### 算数・数学科の学力向上の視点

算数や数学を日常生活に生かせるようにしよう。



#### 思考力・判断力・表現力を育みます。

算数・数学に関わることがらや、日常生活や社会に関わることがらについて、「数学的な見方・考え方」をいかし、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、知識・技能を確実に身につけ、それを活用できるようにすることが大切です。

#### 1 課題を自分事ととらえられるように、導入の工夫を行います。

- 数学の問題だけでなく、日常生活のできごとをもとに、算数・数学を活用する場面設定を行います。
- 課題を子どもから引き出すよう問いかけます。

#### 2 一人ひとりに自分の考えを持たせます。

- 問題解決のための見通しを共有します。
- 目的に応じて、数・式、図、表、グラフなどを活用し、それまでの学習を生かしながら、問題解決ができるように支援します。

#### 3 「学び合い」活動で、友だちと考えを交流しながら自分の考えを深めます。

- 自分なりの考えをもち、わかりやすく友だちに伝えるとき、自分と友だちの考えの共通点、相違点を考えられるようにします。
- 的確で能率的な解き方に迫ることができるよう、子どもの考えをサポートします。
- 理由や根拠を明らかにして、相手に分かるように説明させます。
- 多様な考えを知る、出てきた考えを様々な角度から検討する、友だちと一緒に新たに考えを創り出すといった場面を設定します。

#### 4 課題についてまとめ、ついた力をふりかえります。

- 今日の課題に対する答えとなるよう、子どもの言葉でまとめさせます。
- 一時間の授業の中で、自分はどんな力がついたのか自己評価します。それによって、数学的な見方・考え方を定着させたり、次の場面でも、それをいかしてみようという意欲を高めます。

まとめとふりかえりは別なんだね。



(まとめ)

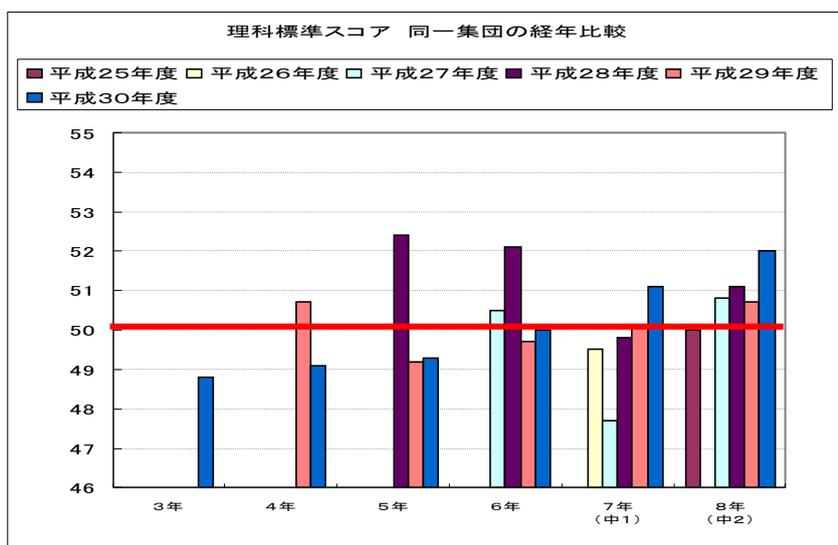
- 受け身的な一斉指導による授業から、「子どもが、自分で課題をつかんで、解決して、まとめて、ふりかえる授業」へと転換するなかで、知識・技能を確実に身につけ一層思考力・判断力・表現力を育んでいきます。
- 問題解決を通して得た知識や技能、数学的な見方・考え方を、次の問題や日常生活に生かしていく意識付けと場面設定を行います。

# 算面学力調査〈概要〉理科

※標準スコア…全国値の正答率を50としたときの値のことです。

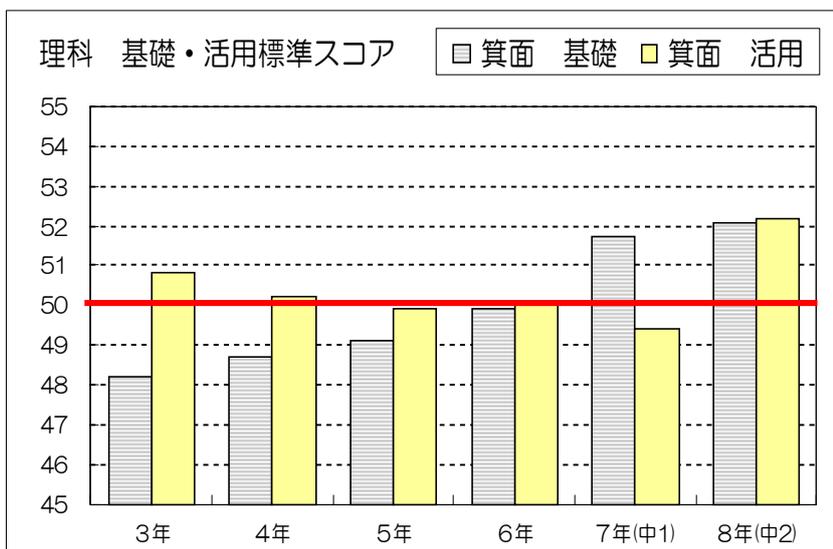


## 学年ごとの標準スコア



- 7年(中1)、8年(中2)においては、全国平均値を上回っています。
- 同一集団の経年比較で、4年生が昨年度を下回っています。(3年は昨年度無し)

## 基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



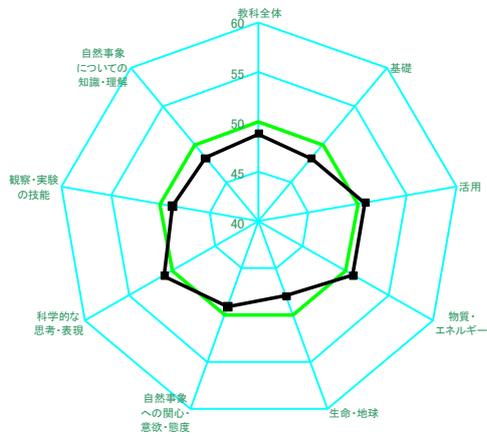
7年以外は、基礎の力より活用の力の方が高いね。3、4、6年は基礎、5年は基礎と活用、7年は活用が数値が全国平均を下回っているね。



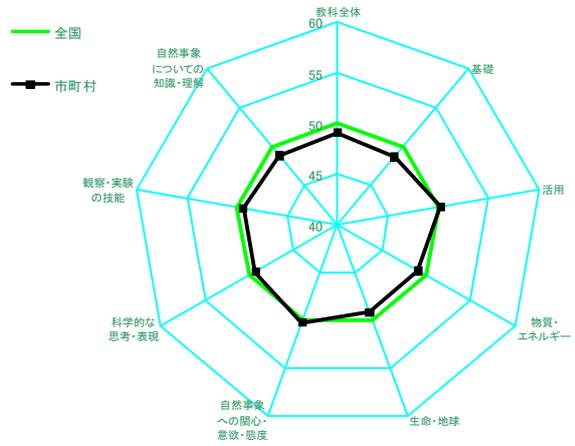
- 「基礎」は、7、8年で全国平均を超えており、4～6年が全国平均を下回っています。
- 「活用」は、3、4、8年で全国平均を超えており、5、7年が全国平均を下回っています。6年は全国平均と同等でした。

# 標準スコアによるカテゴリ間の比較

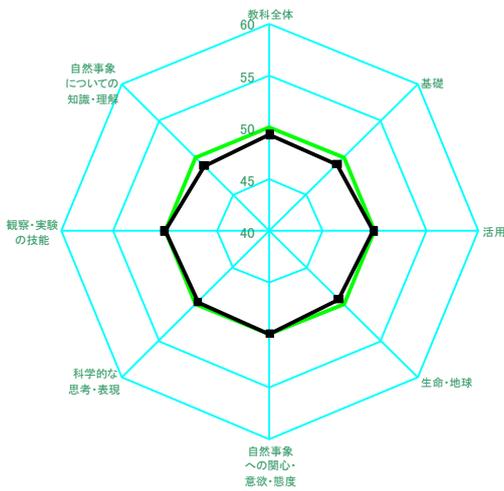
3年



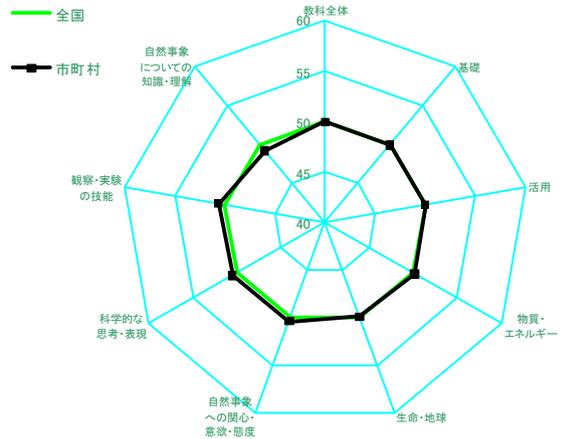
4年



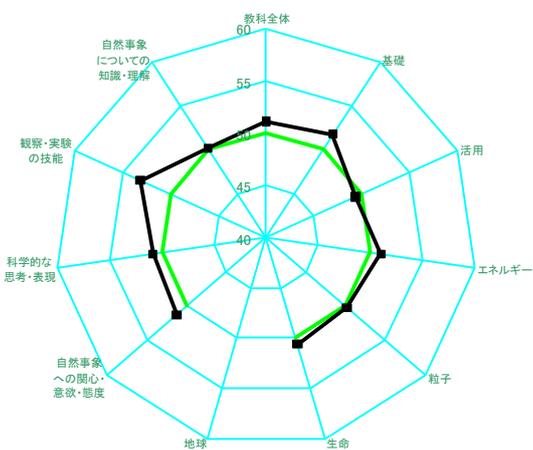
5年



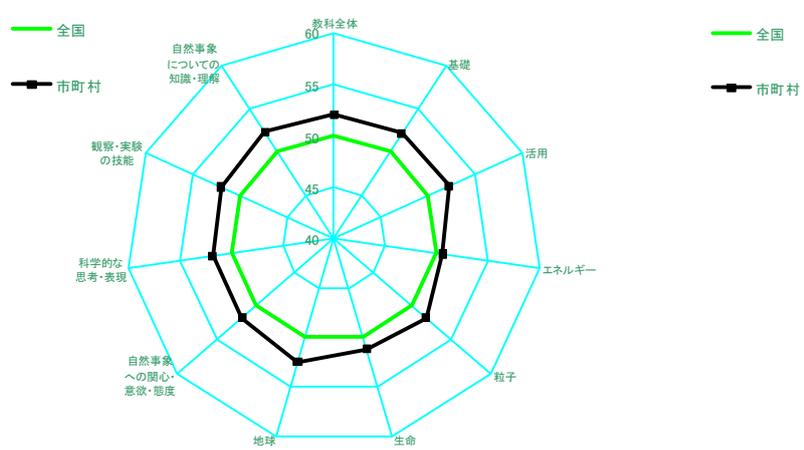
6年



7年(中1)



8年(中2)



※「地球」に関する問題は、未実施です。

- 3、4年が多く数の観点において全国平均を下回っていました。
- 5、6年は多く数の観点において全国平均とほぼ同等でした。
- 7年（中1）の「観察・実験の技能」の観点において全国平均を上回っていました。
- 8年（中2）の「地球」が全国平均値を大きく上回っていました。

## 設問例から見えてくること

### （小学校）

正答率が低かった5年生「生命・地球」領域「天気の変化」の「科学的な思考・表現」の力を問う活用問題です。

天気予報がなかった昔はどのように天気を予想していたかを考える記述問題です。

しんごさんは、に置かれている方位を示す石について、次のように話しています。



どうして図2のような石が置いてあるのかな。  
船を出せるかどうかを決めるなら、海のあるほうの雲のようすを見ればいいはずだよ。



しんごさんの考えのように、次の日の天気を予想するためには、海のあるほうの空を見ればいいとは限りません。なぜ、には方位を示す石が置かれていると考えられますか。かんたんに書きましょう。

#### 正答例

「天気を予想するために、西の方位を知る必要があるから。」

「海がある方が西側とは限らないから」

### （中学校）

正答率が低かった7年生「粒子」領域「水溶液の性質」の「科学的な思考・表現」の力を問う活用問題です。硝酸カリウム 45g と塩化ナトリウム 5g の混合物を溶かして水溶液とし、実験後に塩化ナトリウムが含まれているか否か、溶解度曲線をもとに理由を記述する問題です。



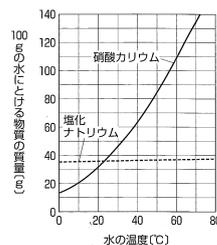
混合物の質量は50gだったよ。塩化ナトリウムと硝酸カリウムは大きさや色が似ているので少量の塩化ナトリウムをとりのぞくのが難しいね。これらの物質は水にとけるので、水にとかしてとりのぞくことができないかな。

#### 【実験】

- ① 20℃の水 50g に混合物 50g を入れてよくかき混ぜた。
- ② とけ残りが出たので、右の図のようにして、ろ過した。
- ③ ろ過した液を加熱し、水をすべて蒸発させた。水を蒸発させて残った物質をかわかした。



- ① 硝酸カリウムと塩化ナトリウムの溶解度曲線から、実験でかわかした物質には、塩化ナトリウムはふくまれていると考えられますか。「ふくまれている」、「ふくまれている」から選んで答えなさい。  
また、そのように考えた理由を簡潔に書きなさい。



#### 正答例 ふくまれている

（理由）ろ過したあとの液体には塩化ナトリウムがとけているから。

小学校の問題は、天気が西から東へと変化していくことを理解していると同時に、その理由を図示されている石と関連づけて考え、石の必要性を説明することをねらいとしています。この問題において、正解していた児童は約4人に1人という割合でした。天気の変化についての知識と、方位を知るための道具について正しく理解し、それぞれの知識を関係づけながら適切な言葉で表現することが大切です。

中学校の問題は、ろ過した後に塩化ナトリウムがふくまれてないと回答、または無回答が半数を占めていました。①溶解度曲線から塩化ナトリウムがすべて水に溶けていることを確認できる。②ろ過をすると、固体（溶け残った物質）と液体（水溶液）に分けることができる。③水に溶かした固体の物質は水を蒸発させることで析出できる。①～③より理由が導かれますが、水溶液の基本的な性質をおさえ、実験から得た結果を溶解度と関連づけて正しく理解し、答えを導くことが大切です。

## 次年度のステップアップにむけて

### 理科の学力向上の視点

学習したことを実生活や身近な自然事象と結び付けることが大切でござる。



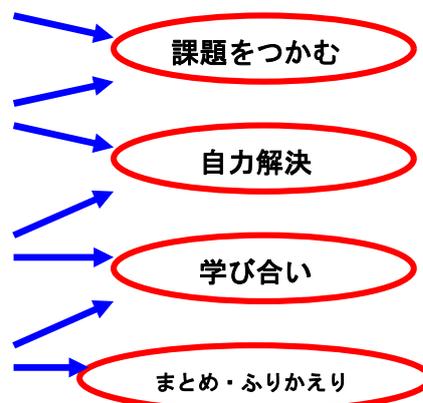
子どもが主体的に解決していく学習活動をおこないます。

#### ・「ふしぎ」ととき明かす学習指導の充実

児童生徒一人ひとりが自然・科学の事象に対して、問題解決を「自分事」として捉え、多くの体験活動をふまえた理科の学習を進めることができるようにしていきます。

#### 【主な学習の流れ】

- ①自然・科学との出会いを大切にしていきます。
- ②体験活動のなかで、子どもたちの中から「なぜだろう？」という疑問、課題が表れてきます。課題の解決に向けた予想や仮説を立てていきます。
- ③予想や仮説を検証するため、子どもたちは目的がはっきりとした実験、観察を主体的におこないます。
- ④実験、観察の結果の整理、考察をおこない課題の解決につなげます。わかったことは理科の言葉を使ってまとめます。学習したことを活用する時間でさらに深めていきます。



#### ●知識を関連づけて

小学校の問題で取り上げられた問題は「天気の変化を予想するためには、どのようなことを知る必要があるのか」ということを正しく理解している必要があります。また、その知識を日常生活の様々な事象、事物と関連づけて考えることができれば、新たな発見にたどり着きやすくなります。

一つの知識を知識としてとどめておくのではなく、経験と関連づけることでより知識を深めることができます。このような機会は、日常生活の様々な場面に隠れています。日常生活における物事を「当たり前」とするのではなく、色々な疑問や関心をもって見る事が大切です。

#### ●見通しをもって

中学校の問題で取り上げられた実験においては「見通しをもって」実験をしているかがポイントです。観察・実験を行う際、何のために行うか、どのような結果が予想されるかを考えることが大切です。この実験のねらいは、硝酸カリウムと塩化ナトリウムの混合物を水にとかしてろ過し、硝酸カリウムだけをとり出す方法について溶解度曲線を参考にして実証するものです。

どのような目的でろ過をするのか、ろ過した液を加熱し水をすべて蒸発させた時、残った物質をかわかすと溶解度曲線から残る物質は何になるかなど、既習事項を確認しながら実験をする必要があります。自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって「観察・実験」などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うことが重要になります。

(まとめ)

- 自然・科学の事象と出会う体験活動を通して、気づきや発見、疑問を大事にしていきます。そこから一人ひとりが知識を関連づけ、見通しをもって観察や実験を行い、その結果を分析して解釈するなど科学的に探求する学習を充実していきます。

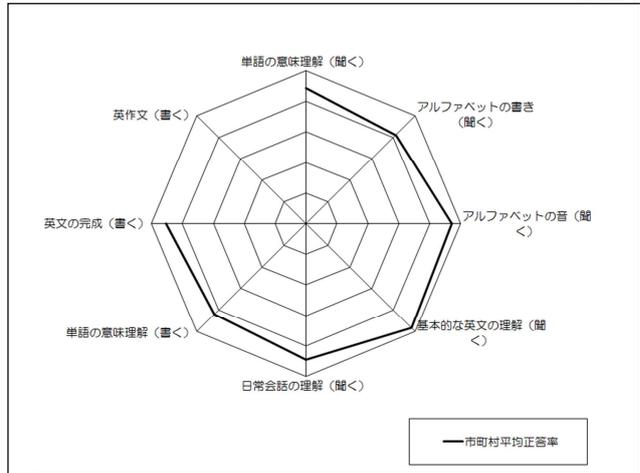
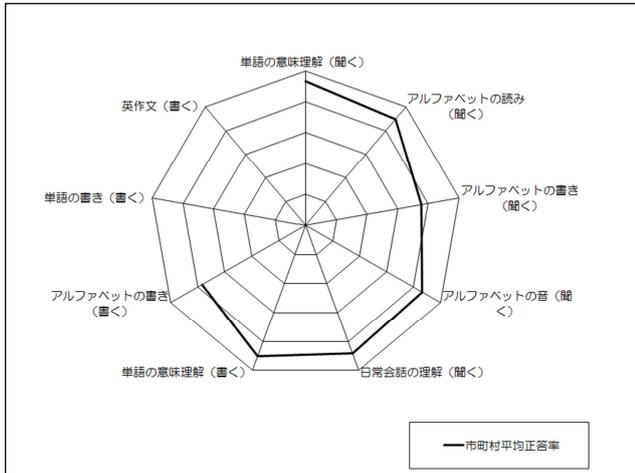
# 算面学力調査〈概要〉英語(小学校)

## 正答率によるカテゴリ間の比較

5年

6年

どの項目もバランスよく取れているでござる。

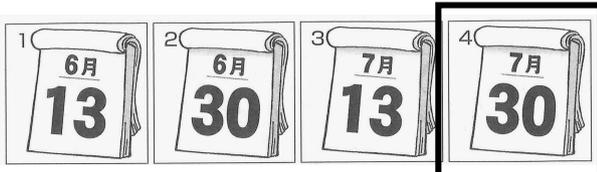


- 5・6年ともに、全ての項目でバランスよく正答できており、大変良好といえます。
- 「アルファベットの音」に関する正答率が5年生に比べて6年生が高くなっており、学年があがるにつれて慣れ親しむことができています。 ※「単語の書き」および「英作文」は今年度未習。

## 設問例から見てくると

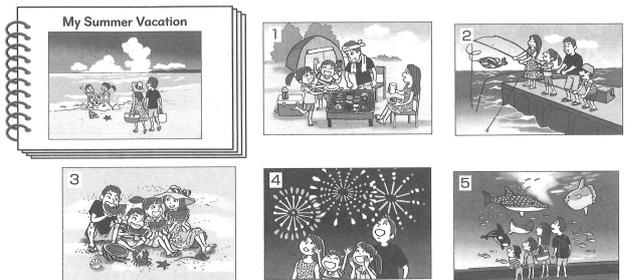
### ● 5年【設問(一部抜粋)】

(正解)



対話文を聞き、登場人物の誕生日を選択肢から選ぶ問題です。正解は7/30"July **thirtieth**"ですが、7/13"July **thirteenth**"を選んでしまうケースが多かったです。序数(thのつく数)は普通の数字よりも難易度が高くなりますが、数字は聞き取り問題のポイントとなることが多いので、繰り返し口に出して慣れておくといいいでしょう。また、聞き取る時に数字に注意を払うようにすると内容を把握しやすくなります。

### ● 6年【設問(一部抜粋)】



「夏休みの思い出」について、まとまりのある話を聞き、話の内容と合う絵を選択肢の中から3つ選ぶ問題です。fishing(釣り)/fireworks(花火)/watermelon(西瓜)と、聞き取るべき内容が比較的多く、かつ具体的に理解する必要があります。解答の際、わかったものに印をつけながら聞くなどの工夫をするのもいいでしょう。

小学校では、コミュニケーションを図る上での基礎的な力を身につけていきます。6年間を通して、主体的に英語を学ぶ姿勢を高めるためには、実際に英語を使ってコミュニケーションをして、「通じた」「やりとりできた」という体験をすることがとても大切です。授業で学んだことを使って、積極的にALTの先生に話しかけてみましょう。

## 次年度のステップアップにむけて

### 高学年 外国語活動における学力向上の視点

毎日英語に触れることで、コミュニケーション能力アップでござる。



#### コミュニケーションのための基礎的な力高めるために

平成 32 年度より、新学習指導要領が完全実施となることにともない、現在の高学年（5・6 年）で実施している外国語活動は、外国語科（教科）となり、中学年（3・4 年生）から外国語活動が導入されます。中学年において、「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通して、外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年からの発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えます。平成 31 年度は、新学習指導要領の完全実施に向けて、外国語活動の学習内容をもとに、外国語科の学習内容も学びます。外国語科の目標は、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することです。中学年まで音声や基本的な表現に慣れ親しんだことを生かし、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能の基礎的なものを身につけます。

箕面市では、低学年（1・2 年生）から毎日英語に触れる環境で学習しており、音声や基本的な表現に、よりいっそう慣れ親しんだ状態で高学年を迎えます。6 年間を通して、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち続けるため、子どもたちが、主体的に学習に取り組むことができるような指導をしていきます。

#### 1 「聞く」「話す」をもとに「読む」「書く」技能に慣れ親しむ

- 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにするとともに、それまで十分に音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにします。
- 自分のことや身近で簡単な事柄について、それまで十分に音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて例文を参考に書くことができるようにします。

#### 2 英語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- 子どもの興味・関心を高めるよう工夫したカリキュラムをもとに、ALT を積極的に活用した指導を行い、英語によるコミュニケーションを図る機会を増やします。
- 45 分授業と合わせ、映像教材を活用した 15 分モジュール学習を行い、コミュニケーションの土台となる表現にいっそう慣れ親しむようにします。

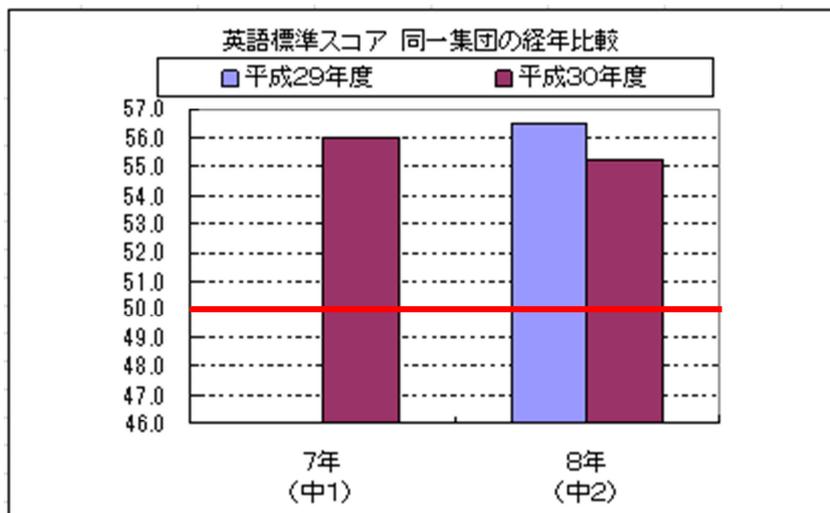
（まとめ）

- 小学校低学年から慣れ親しんだ基本的な英語表現をもとに、興味・関心を高めるための学習内容を工夫することで、コミュニケーションを図ろうとする態度を伸ばす授業づくりを行います。
- 「聞く」「話す」能力を伸ばすとともに、「読む」「書く」ことに対し、いっそう慣れ親しみ、英語の技能がバランス良く育まれる言語活動の充実した授業づくりを行います。

# 箕面学力調査〈概要〉英語(中学校)

## 学年ごとの標準スコア

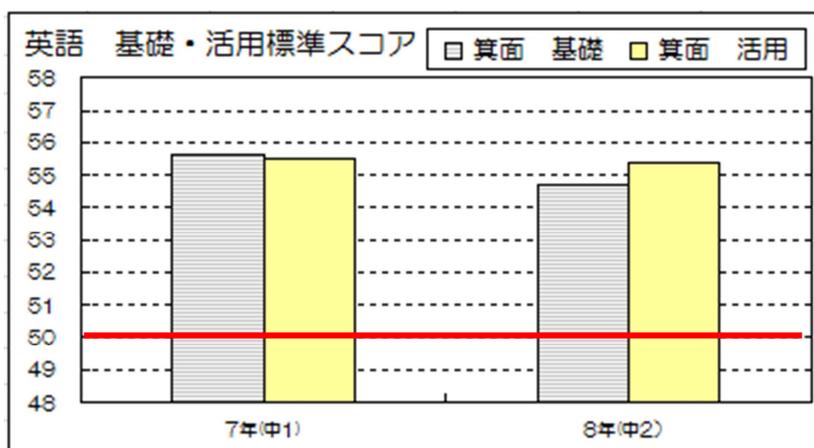
※標準スコア…全国平均値の正答率を50としたときの値のことです。



箕面市の生徒の英語力は高い水準で推移しており、今年度も同様の傾向です。

- 7年は全国平均値より6.0ポイント高い結果となっています。
- 8年は7年時より下がっていますが、全国平均値より5.2ポイント高い結果となっています。

## 基礎と活用(思考力・判断力・表現力)の状況



両学年「基礎」「活用」とも全国平均値を大きく上回っていて、7年は「基礎」がより高く(+5.6)、8年は「活用」のポイントが高く(+5.4) になっているね。7年、8年ともに昨年度に比べて「活用」の数値がアップしたよ。日々の英語の授業を熱心に受けているからだね。

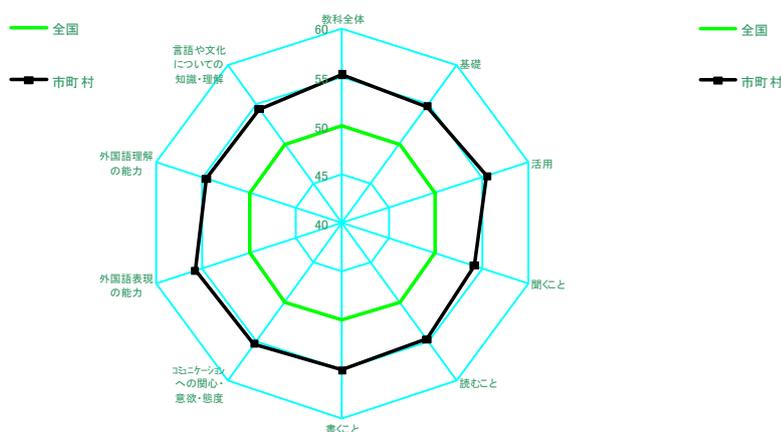
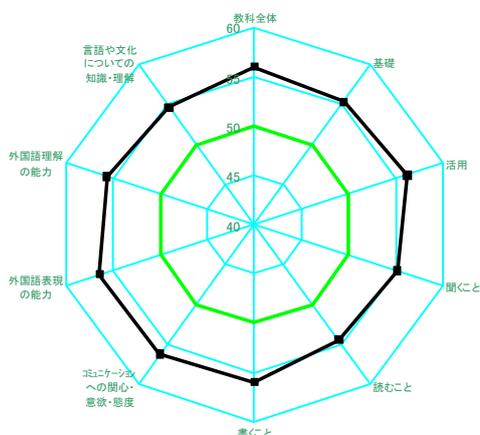


- 7年は「基礎」は5.6ポイント、「活用」は5.5ポイント全国平均値より上回っています。
- 8年は「基礎」は4.7ポイント、「活用」は5.4ポイント全国平均値より上回っています。

## 標準スコアによるカテゴリー間の比較

7年(中1)

8年(中2)



- 7・8年ともに、全ての項目で全国平均値を大きく上回っており、大変良好といえます。
- 7・8年ともに、各技能について大きな偏りはありませんが、「表現の能力」が他と比べて高くなっています。

## 設問例から見てくると

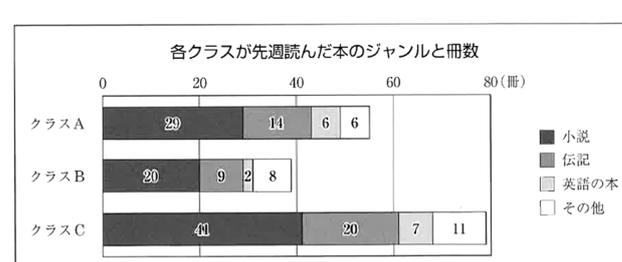
### ●7年(中1)【設問(一部抜粋)】

【あさひ高校文化祭案内】

4階	【映画部】 自作映画の上映 午後2:00～6:00	
3階	【音楽部】 バンド演奏 午前9:00～10:00	【写真部】 写真教室 午前11:30～午後1:00
2階	【三味線同好会】 演奏体験 午前10:10～11:20	【美術部】 絵画教室 午前10:40～12:00
1階	【落語部】 部員による落語 午前10:10～11:15	【数学部】 算数・数学クイズ 午前10:15～11:15

図と合わせながら2人の対話文を読み、対話文の中にある空欄に、登場人物の発言として適切なものを選択肢の中から選んで答える問題です。英文自体の難易度はそれほど高くありませんが、図と合わせながら読むことで難しさが増えています。正答率は約31%となっており、多くの生徒が誤答を選んでしまいました。英文を読みつつ、わかったことをメモするなどの工夫も効果的です。また特に空欄の前後は重要な情報が載っていることが多いので、注意して読むようにしましょう。

### ●8年(中2)【設問(一部抜粋)】



グラフをもとにして対話が流れ、対話の最後にチャイムが鳴ります。その部分に適切な英語を3語以上の1文で答える問題です。ポイントは、① We read about eighty books. という文の"eighty books"を聞き取り、クラスCの話だと捉え、その上で②How many English books did your class read?(チャイム)を聞き取り、その質問に答えます。リスニングでは数字が絡むと難易度が上がります。日頃からリスニングの際に、数字に注意を払うように心がけると、内容の把握がしやすくなります。

昨年度と同様、「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能をバランスよく育成し、各技能を統合して活用できる力が必要です。そのためには、授業で学んだ表現方法を理解し、実際に使うことが大切です。授業の中だけではなく、休み時間も積極的にALTの先生に話しかけてみましょう。英語の能力を今以上に開花させましょう。

## 次年度のステップアップにむけて

### 英語科の学力向上の視点

授業で学んだことを使って、ALTの先生に英語で積極的に話しかけてみるとよいでござる。実際に「通じた」という経験をするのがとても大切なのでござる。



### コミュニケーション力を高めるために

次期学習指導要領では「何を学ぶか(何を知っているか)」ということにとどまらず、それをもとにして「何ができるようになるか」という視点で、生徒の英語力を育むことが求められています。コミュニケーションの手段として英語を使うという観点から、4技能(「聞く」「話す」「読む」「書く」)を総合的に高めていくことを目指します。そこで、英語の授業では「読む」「書く」活動だけでなく、実際の場面を想定した対話練習や、相手を意識したスピーチ活動などを多く取り入れ、英語を使ったコミュニケーション能力を育てていきます。

#### 1 「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能をバランス良く伸ばす

- 英語を使ったやりとりを行う「言語活動の充実」に取り組みます。
- 授業が、実際に英語を使ったコミュニケーションの場となるようにします。

#### 2 英語で自分の考えを発表する機会の充実

- 英語コミュニケーション科でスピーチやプレゼンテーションに取り組みます。
- 「自分の伝えたいことを表現する」という目的意識を持てるようにすることで、単語や文法に対する学習意欲を高めます。

#### 3 即興的に英語を使う活動の充実

- ペアやグループで対話的な学習活動に取り組みます。
- キーワードをもとにして、相手とのやりとりを続ける活動に取り組みます。

(まとめ)

- 相手を意識してやりとりをするなど、実際の場面を想定して英語を使うことや、スピーチやプレゼンテーションでは相手に伝えたいことを持っているということが大切です。英語の学習内容を他教科や学校生活と関わらせた授業づくりを行います。
- 英語4技能がバランス良く育まれる「言語活動の充実」した授業づくりを行います。

## 英検 IBA の結果について

今年度、英検 IBA における、英検 3 級レベル相当以上の英語力を有する生徒(中学 3 年生)の割合は 79.7% となり、市の目標とする 80% にはわずかに届きませんでした。全体として非常に高い結果となりました。

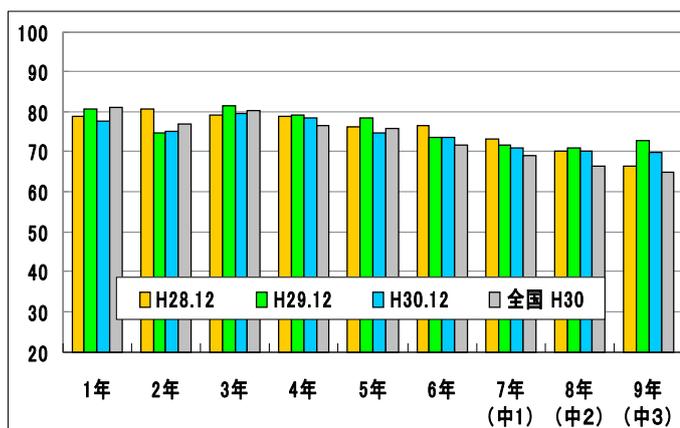
# 箕面学習状況調査・生活状況調査 〈概要〉

- 調査は平成 30 年 6 月と 12 月の 2 回実施し、箕面市の肯定率を全国と比較
- 回答は、「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の 4 つから選択
- 肯定率とは、選択肢の「そう思う」と「少しそう思う」の割合を単純に合計した値

## 【自己認識】 箕面っ子の自己肯定感は…

### 家族とのかかわり

◆本当につらいことがあったとき、それを家の人のだれかに相談できますか。

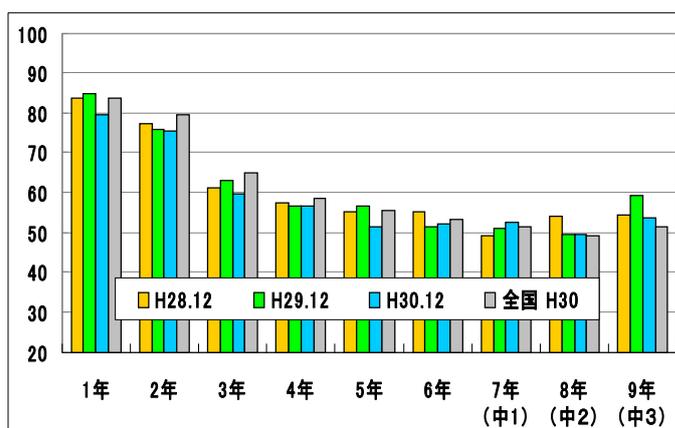


安心して相談するでござる！



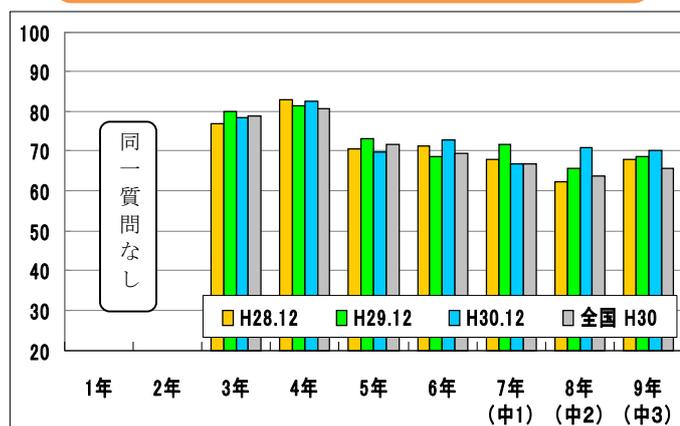
### 先生とのかかわり

◆本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。

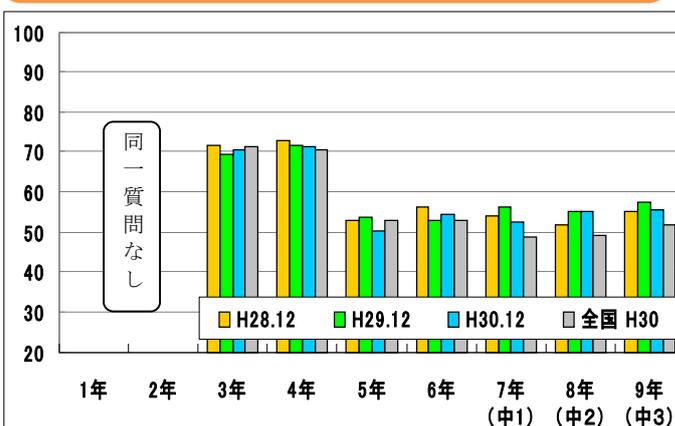


### 成功体験と自信

◆自分にはいいところがあると思いますか。



◆学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか。



「家族や先生に相談できる」という割合は、中学生は全国平均値より家族や学校の先生に相談する割合が高く推移しています。しかし、小学校 3 年頃から年齢が高くなるにつれて下がっていく傾向にあります。また、「自分にはいいところがある」「期待されている、頼りにされている」と思っている子ども、年齢が上がるにつれて割合が下がっていく傾向がありますが、全国と比べると高く、特に 6 年生以降の学年で高くなっていることが分かります。

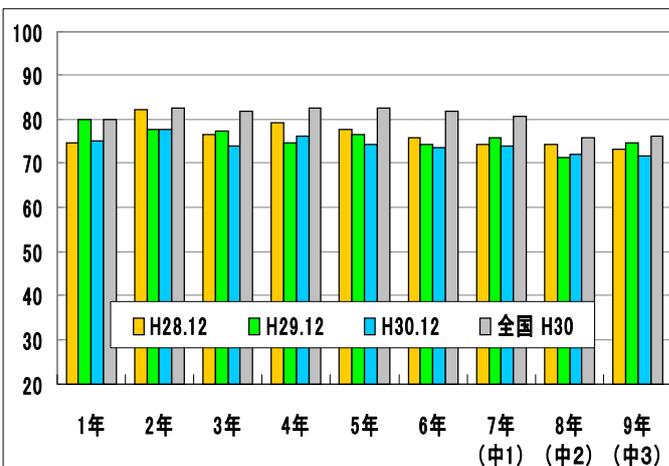
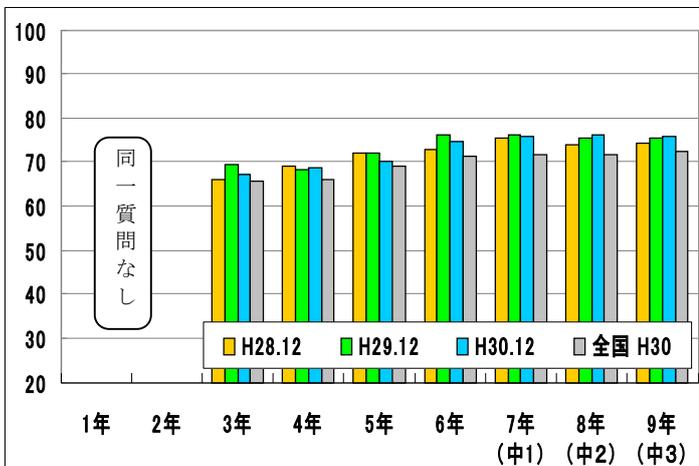
## 【社会性】 ソーシャルスキルは・・・

自分からすすんであいさつをしよう



◆友だちが成功したときはいっしょに喜び、失敗したときはいっしょにくやしがる、その思いを言葉やからだで伝える方ですか。

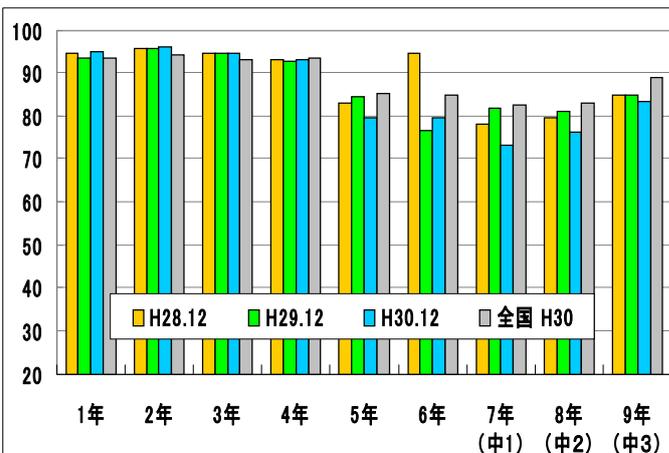
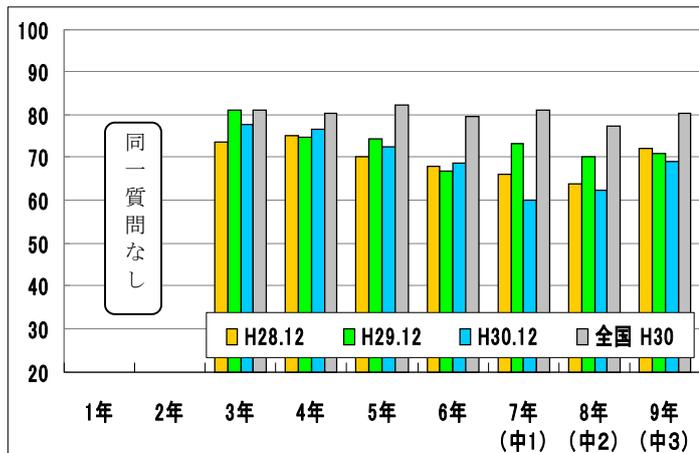
◆近所の人にあったときにはあいさつをしていますか。



## 【学級環境・規範意識】 学級での規範意識は・・・

◆あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕事を、責任をもってしていますか。

◆あなたのクラスでは、みんなが先生の言うことを守っていますか。



箕面の子どもたちは、社会性における「あいさつをすること」が、ここ数年の課題として続いています。学校でのあいさつ運動やボランティア活動などを継続・活性化させながら、地域・社会ともつながりを強めていくことが重要であると考えます。

友だちと思いを共有することは、どの学年も全国に比べて高い割合です。仲間と共に喜び、励ましあいながら成長している姿がうかがえます。

「学級での役割に対する責任感」は、全国に比べると低く、先生の言うことを守る割合も小学校高学年から中学校にかけて低くなる傾向が続いています。こうしたデータを踏まえ、各学校や教員は、自分の役割をしっかりと果たすことの大切さや、ルールを守ることの意義を、児童生徒にしっかりと伝える必要があります。

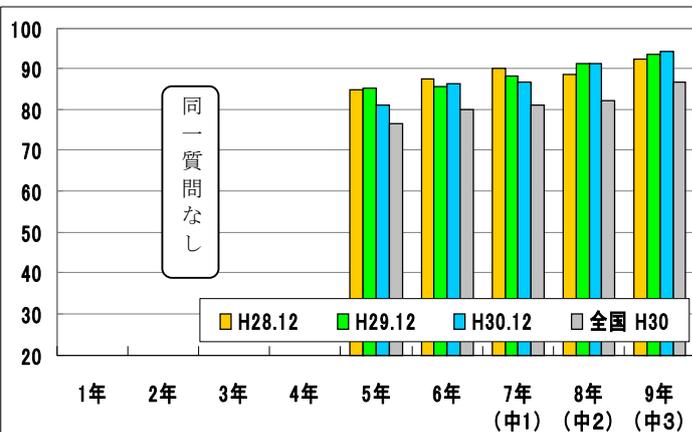
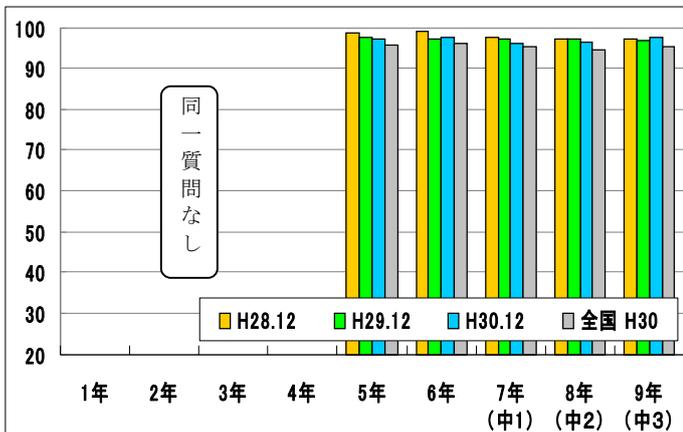
## 【対人ストレス】 いじめのサインは…

このグラフは、ポイントが高いほど良好なのでござる！



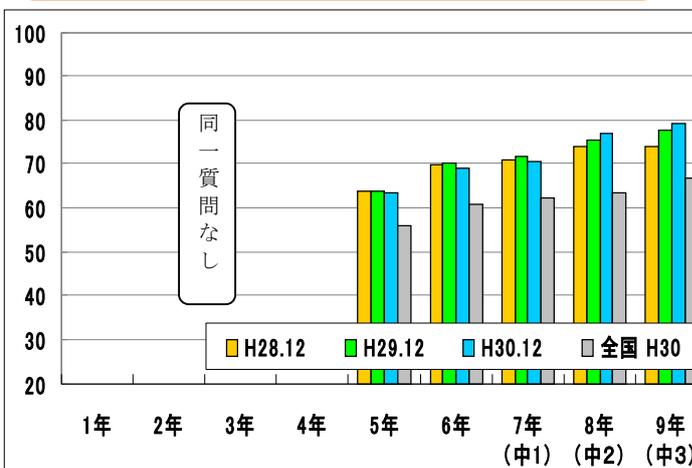
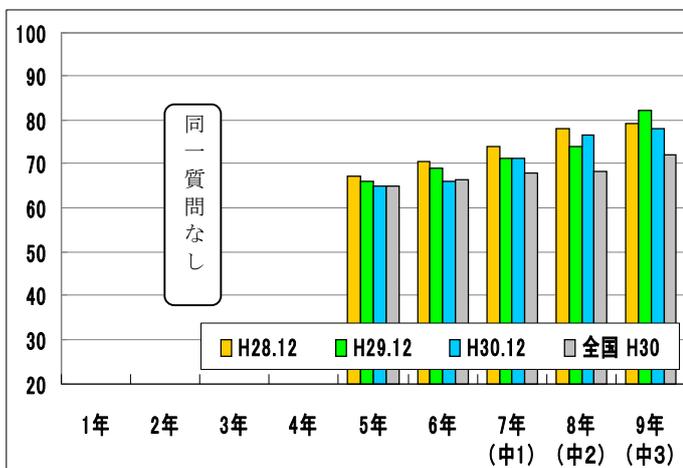
- ◆LINE やツイッター上で仲間はずれにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか。  
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合

- ◆自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか。  
⇒「一度もない・前はあった」と回答した割合



- ◆仲のいい友だちから、自分がどう思われているか、つい気になってしまうことがありますか。  
⇒「気になることはない・たまにある」と回答した割合

- ◆信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか。  
⇒「一度もない・けんかをはしても傷つくことはない」と回答した割合



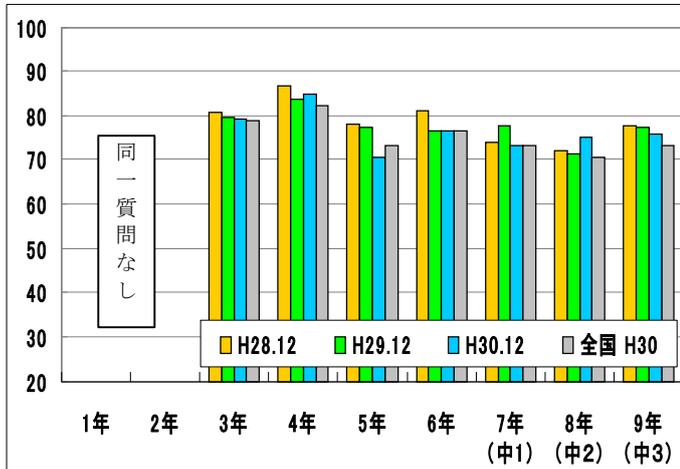
「対人ストレス」を感じていない子どもの割合は、例年、全国より高い結果がでています。但し、「LINE やツイッター上で仲間はずれにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか」という質問は、全国とほぼ同じ水準です。各学校においては、情報モラルに関する学習や、ネットトラブルに遭わないための講習を引き続き行っていきます。それとともに、周りの大人も、子どもたちからのサインを見逃さないよう、しっかりと見守っていく必要があります。

使い方には十分注意しよう！！



## 【学級の絆】仲間の意識は…

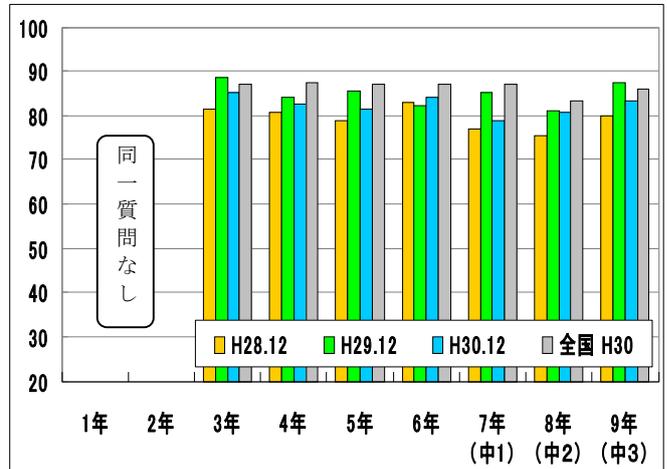
◆あなたは、クラス全員の、一人ひとりのいいところを、言葉にして言うことができますか。



クラス全員のいいところを  
言えるって素敵だね！

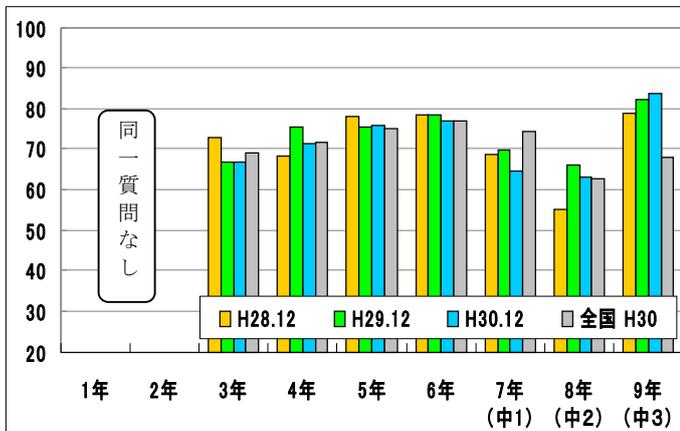


◆今のクラスが好きですか。



## 【学習習慣】家庭学習は…

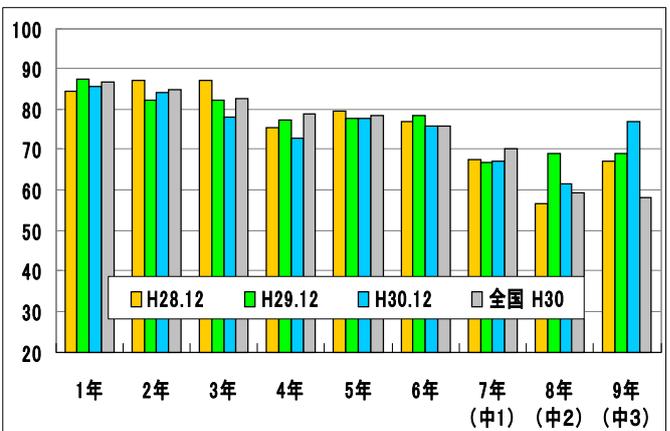
◆家で、週に何日くらい勉強しますか。  
（「ほぼ毎日」と「4～5日」を合計した数）



復習をがんばろうね！



◆テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。



「いいところを言葉にして言うことができる」という子どもの割合は、全国と比べるとおおむね上回っていますが減少傾向です。「今のクラスが好きですか」の質問は、全国と比べると下回っています。学級の絆を高めるために、日々の学習活動での学び合いや、学校行事を通して、感動や成功をクラス全員で分かち合うなどの体験を積み重ねていくことが必要です。

家庭学習の習慣は、9年（中3）になると大幅に高くなりますが、中学生になると低くなる傾向があります。小学校で身につけた学習習慣が中学校につながるように、自主学習ノートなどを活用し、自分がすべき課題に気づき、ついた力を認識し、次の学習課題をたてる経験を小学校の段階から積み重ねておくことが大切です。



各校では、成果と課題を明確にして、取組を検証し指導に活かしていきます。

### 【箕面っ子の自己肯定感】

- 「家の人に相談できる」「先生に相談できる」と感じている人の割合は、学年が上がるにしたがって減少傾向ではあるものの、中学生は全国よりもおおむね高い割合であり、家族や先生に相談できる関係を築けている傾向が見られました。また、「自分にはいいところがある」「周りから期待や頼りにされている」と感じる割合も、多くの学年で全国よりも高くなっています。特に中学生で期待されていることを感じられているようです。

### 【いじめのサイン】

- 「自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることはありませんか」や「信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか」などの質問項目では、各学年とも良好な結果が出ており、全国を大きく上回っています。これは、各学校、各学年、各学級で良好な人間関係が築けているからこそです。今後も集団づくりを中心に、児童生徒が安心して過ごせる環境をつくっていきます。

### 【学級の絆】

- 「今のクラスがすき」と言える子どもたちを箕面市でたくさん育てられるよう指導していきます。そのために学校では、子どもたちをつなげ、互いを認め合える関係づくりに努める必要があります。子どもたちが周りの仲間の多様なもちあじを肯定的に受けとめられるようになると、みんなが安心できる居心地の良いクラスとなっていきます。また、行事など子どもたちが主体的・共同的に取り組める活動の機会を活かして、互いに絆を感じ育てていけるよう指導します。

### 【学級環境・規範意識・社会性】

- 友だちと思いを共有することは全国と比べて高い割合ですが、学級での役割に対する責任感や近所の人にあいさつをする社会性は、全国に比べて低い傾向です。役割や仕事に対する責任感を意識させ、役割を果たした時には褒めることにより達成感を持たせることが大切です。

### 【学習習慣】

- 家庭学習の習慣や、復習する学習習慣は、7年、8年で一旦、低くなる傾向があります。小学校の宿題を通して身につけた復習や予習のしかたを中学校でも継続し、自ら進んで学ぶ姿勢を育むことが大切です。

人が一生のうちで会話をする人数は3千人と言われてるんだー。これは、日本の人口でどれくらいの割合かというと、0.00025%なんだ。わたしたちは、お互いを傷つけ合うために出会っているんじゃないんだよー。この奇跡的な「縁」、「つながり」は、お互いを認め合い、助け合う関係を育んでいくための「出会い」なんだよー。

